

MESA/BOOGIE



取扱説明書

ROAD KING

目次

使用上のご注意	0
概要	1-2
はじめに	3
役立つヒント	3-4

フロントパネル

モード: CH1 & 2 Clean	5
CH1 & 2 Fat	5
CH1 Tweed	5
CH2 Brit	6
CH3 & 4 Raw	6
CH3 & 4 Vintage	6
CH3 & 4 Modern	7
コントロール:	
GAIN (ゲイン)	7
TREBLE (トレブル)	8
MID (中域)	8-9
BASS (バス)	9
PRESENCE (プレゼンス)	9
MASTER (マスター)	10
OUTPUT CONTROL (アウトプット・コントロール)	10-11
SOLO CONTROL (ソロ・コントロール)	11
HI VOLTS & AC MAINS SWITCHES (スタンバイ&電源スイッチ)	11

バックパネル

SLAVE (スレーブ)	12
SPEAKER OUTPUT BANK A+B (スピーカー出力端子&キャビネット切替)	12
REVERB (リバーブ)	13
CHANNEL STRIPS (チャンネル・ストリップ)	13
PROGRESSIVE LINKAGE (プログレッシブ・リンケージ)	13
パワー管の選択	14-19
DIODE/TUBE TRACKING (ダイオード整流/レクト真空管トラッキング)	20
SPEAKER A/B & A+B SELECT SWITCH (SPEAKER A/B & A+B 選択スイッチ)	21
FX LOOP (LOOP 1 & LOOP 2 選択スイッチ)	21
TUNER MUTE (チューナーミュート)	21
FX LOOP PATCHING & EXTERNAL SWITCHING (エフェクトのパッチと外部スイッチ)	22-23
POWER: SPONGY & BOLD (電源: スポンジー&ボールド)	23
FUSE (フューズ)	24
サンプル・セッティング	25-28
スピーカー: インピーダンスと接続ガイド	29-34
真空管機能表	35
パーツ・シート	36

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従ってインストールして下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発生する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意:安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意:必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogie(メサ/ブギー)アンプはプロ用の機材なので、規定に従って扱って下さい。

上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!



取扱説明書

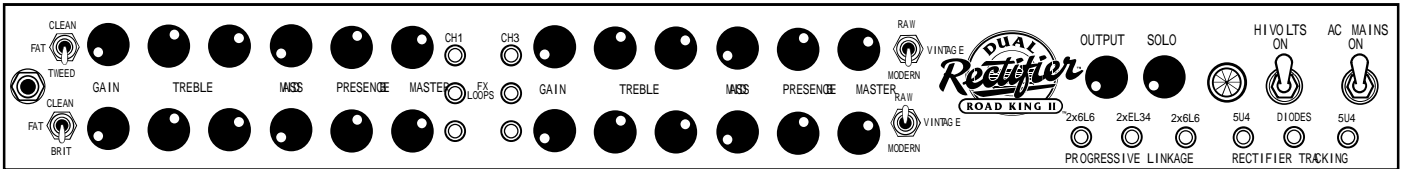
概要:

メサ・デュアル・レクティファイア・ロード・キングをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。そしてメサ・ファミリーへようこそ!このハンド・メイドの全真空管アンプを選んだ事で、あなたはギター・アンプの未来へと、一步踏み出したのです。ロード・キングは、一目で、ただのアンプではない事が解ります。それは、多くのアンプが1つのシャーシに詰まった、まさに、進化型ギター・アンプ・アレイとでも呼ぶべきものなのです。このサウンドの宝庫は強力で、あなたの思い通りに操る事が出来、ひとたび演奏を始めると、あなたのイメージネーションを駆り立ててくれます。さあ、それでは早速機能を理解して、あなただけのサウンドをクリエイティブにしていきたいと思います。

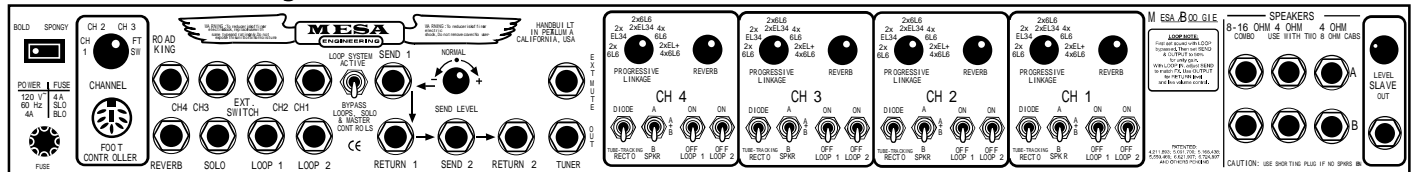
まず始めに、このギター・サウンドの宝庫を理解する上で最も重要な事は、一見してすぐ解る様に、このアンプは4つのセクションに分かれているという事です。各セクションを個別に理解して、それから、それらを統合すると、このアンプを簡単により良く理解出来るはずです。フロント・パネルの各プリ・アンプ・チャンネルは、リア・パネル(我々はチャンネル・ストリップと呼んでいます)の、パワー・アンプ/エフェクト・ループ・コントロール・パネルに対応しています。チャンネル/モードを選択したら、単純にリア・パネルで、そのチャンネルのパワー・アンプ(5種類の中から1種類)を選ぶだけです。これで、あなたのレクティファイア・スタイルは決まりますので、あとはエフェクト・ループを選択してプログラムすれば、準備完了です。他のチャンネルに関しても、同様の手順を踏めば、すぐに音を出す事が出来ます。ロード・キングで、あなたのサウンドを求める旅に出発しましょう。ロード・キングの奥深さ、そして潜在能力については年を追う毎に、追々解ってくるはずです。まずは、ロード・キングで、シンプルに音を出す事が先決です。

4つの独立したプリ・アンプ・チャンネルは、ロード・キングの前半を司る、音作りには欠かせないパートです。そして、そのプリ・アンプは、低ゲインのリズム・チャンネル(1 & 2)と高ゲインのリード・チャンネル(3 & 4)の2つのグループに分ける事が出来ます。インプット・ジャックの隣には、2組の低ゲインのリズム・チャンネルが上下に配置されています。各チャンネルには3種類の異なるモードがあり、各モードは、それぞれ異なるボイシング、そして場合によっては異なるゲイン構造で構成されています。モードの名称は、グループ毎に共通(リズム・チャンネルの1つを除いて)である事がお分かりいただける事でしょう。これにより、同じサウンドから、セッティングを変えてバリエーションを増やす事が出来ます。

フロントパネル: Road King IIコンボ



バックパネル: Road King IIコンボ



概要(続き):

ロード・キングは、変幻自在であり、ジャンルを問わず様々なミュージシャンに使って頂けます。幅広い音楽ジャンルにも対応出来ますし、ある特定のジャンルのサウンドを突き詰めていく事も可能です。例えば、ブルース・プレイヤーなら、チャンネル1 & 2を、同じモードで異なるクリーン・サウンドの設定にして、コード・サウンドやソロ・サウンドにする一方で、チャンネル3 & 4を、同じ低ゲインのソロ・サウンドにして、レベルを変えろといった事が出来るでしょうし、反対に、ロック・プレイヤーなら、チャンネル1 & 2を、クリーンなプッシュ・リズム・サウンドにして、チャンネル3 & 4を、同じモードで異なる、高ゲインのクランチ・リズム・サウンドや、リード・サウンドにするといった事が出来ます。

このようなプリ・アンプの汎用性は、あなたの所属するバンドが変わったり、新たなジャンルに挑戦するときでも、一切妥協する必要がない事を意味します。このアンプは、あなたと一緒に成長していくのです。

この驚くべきプリ・アンプで作りに出されたサウンドは、ロード・キングのエフェクト・ループ・セクションに送られます。エフェクト・ループは、直列ループが2系統あり、ほとんどのエフェクト・プロセッサーを接続する事が出来ます。これらは個別にも、一緒に使用する事も可能で、チャンネル毎にプログラムしたり、フットスイッチでオン/オフする事も出来ます。

そして、ロード・キングの最もクールな機能に辿り着きます。それは、弊社が特許を有する、プログレッシブ・リンケージです。これは、切り替えやアサインが可能なパワー・セクションです。5つのパワー・セクションの内の1つに、4つのプリ・アンプの様々な組み合わせを、送る事が出来ます。選択肢は、明るくて柔軟性のある2 x 6L6; 緊迫感があって派手な2 x EL34; 太くてタイトな4 x 6L6; 他を寄せ付けない鋭さを持った2 x 6L6 + 2 x EL34; 圧倒的な大パワーの4 x 6L6 + 2 x EL34の5つです。

各パワー管の組み合わせは、それぞれ個性を持っており、プリ・アンプとの組み合わせで、さらにバリエーションは広がります。しかし、まだ終わりではありません…ロード・キングには、レクティブファイア・トラッキング機能があります。これは、選択されたプリ・アンプとパワー・セクションの整流タイプを、自動的に合わせる機能です。これは、あなたの作っているサウンドに、パワー感を加える事を意味します。例えば、低いワットテージのクリーン・サウンドに、ルーズなフィーリングや、真空管整流の空気感を加えたり、高ゲインのリード・サウンドに、大きなパワーや、半導体整流器のタイトなトラッキングや、低音域のレスポンスの良さを加えたりします。レクティブファイア・トラッキングは、パワー・セクションにおいて、あなたの選択した様々な組み合わせのパワー管の整流を適正に行います。例えば、2 x 6L6あるいは2 x EL 34を使用して、真空管整流を選択すると、1 x 5U4Gが適応します。また、4 x 6L6あるいは2 x 6L6 + 2 x EL34を使用すると、2 x 5U4Gが適応します。そして、6本のパワー管全て(4 x 6L6 + 2 x EL34)を使用すると、シリコン・ダイオードが選択され、最も大きなヘッドルームが確保されます。このレクティブファイア・トラッキング機能は、ロード・キングのサウンドのバリエーションをさらに広げ、表現力を比類無きものにしてくれます。

これまでの機能でも、まだ足りないという方は、チャンネル毎のスピーカー・スイッチング機能をお使い下さい。ロード・キングは、A、B、2系統のスピーカー出力端子を装備しており、チャンネル毎に異なるスピーカー・エンクロージャーに出力する事が出来ます。例えば、1つを2 x 12のオープン・バック・キャビネットに接続して、クリーン・パフォーマンス用に、もう1つを2 x 12のクローズ・バック・キャビネットに接続して、リード・サウンド用に、といった使い方が出来ます。この時、2台のキャビネットは、異なるインピーダンスでも大丈夫です。

ロード・キングは、リッチで、全真空管のアナログ・リバーブを内蔵しています。チャンネル毎にリア・パネルのリバーブ・コントロールで調整する事が可能で、オン/オフは、キング・コントローラーで行う事も出来ます。

ソロ機能は、パラレル接続された出力レベル・コントローラーであり、事前にレベルを設定しておく、フットスイッチを押す事で、そのレベルに切り替える事が出来ます。この機能は、曲の途中で、ギター・ソロになる時に、レベルを大きくする場合等に使用します。

内蔵のVariac(可変電圧) SPONGY(スポンジー)/BOLD(ボールド)スイッチは、弊社の特許技術であり、入力された電源電圧を内部で下げる機能です。これによりサウンドはルーズになり、高次倍音が増えて広がりのある音になります。

最後に、ロード・キングの表現力を増す、便利なフットスイッチ、キング・コントローラーをご紹介します。このコントローラーを使うと、チャンネルや機能を素早く切り替える事が出来、LEDが光るので、アンプの状態を把握する事が出来ます。

これで、ロード・キングの概略はご理解いただけたいと思いますので、早速演奏に入っていきます。

はじめに:

- 1.) アンプを箱から取り出したら、真空管(プリ・アンプ管、パワー管、整流管全て)についているプラスチックを、全て取り外して、全ての真空管がソケットにしっかり装着されている事を確認します。
- 2.) スプリングの真空管クランプを広げて、5U4整流管(装着されていなければ)を装着します。クランプをきちんと広げれば、真空管を軽く押し込むだけで、装着する事が出来ます。装着する際は、ソケットのスロットに沿って、真空管のベースを差し込みます。無理矢理押し込まない様に注意して下さい。ソケットに沿っていれば、そんなに力はいりません。
- 3.) フット・コントローラーの8ピンDINケーブルを、リア・パネルのロータリー・モード選択スイッチの下にあるDINコネクタに接続します。
- 4.) スピーカー・エンクロージャーを、適切なインピーダンスのスピーカー出力端子“A & B”に接続します。スピーカー・キャビネットを1台しか使用しない場合は、負荷が無い事による出力トランスのダメージを防ぐ為に、スピーカー出力端子“B”にダミー・プラグを接続しておいて下さい。
- 5.) 電源ケーブルをコンセントに接続して下さい。
- 6.) 電源スイッチをON (オン)にして、最低30秒経って、パワー管のフィラメントが暖まってから、HI VOLTS (ハイ・ボルト)スイッチを上倒して下さい。このコールド・スタートの手順を踏む事で、真空管の寿命を延ばす事が出来ますので、アンプの電源を入れる際は必ず行って下さい。
- 7.) HI VOLTS (ハイ・ボルト)スイッチを上倒すまでは、フロント・パネルの出力ボリュームを絞りにしておいて下さい。これにより、いきなり大きな音が出て耳を痛めるトラブルを避ける事が出来ます。このアンプは、相当大きな音を出す能力を持っていますので、注意が必要です。この手順は必ず守って下さい。
- 8.) HI VOLTS (ハイ・ボルト)スイッチを上倒して、演奏を始めて下さい。

役立つヒント:

- 1.) チャンネルや機能の切り替えを、フットスイッチで行う場合は、リア・パネルのチャンネル・セレクト・ロータリー・スイッチをFOOTSWITCHに設定して下さい。
- 2.) **OUTPUTとSOLOコントロールは、エフェクト・ループが有効になっている時のみ動作します。**リア・パネルのEFFECTS LOOPがLOOP BYPASSになっていると、コントロールは効きません。
- 3.) 音が出る様に設定されているのに、すごく小さな音しか出ない、ひどく歪んだ音しか出ない、あるいは全く音が出ない、等の場合は、SPKR ASSIGNのミニ・トグル・スイッチが“A + B”や“B”になっていないか確認して下さい。
- 4.) SOLOコントロールは、リア・パネルのFOOTSWITCHジャックにフット・コントローラーが接続されていて、エフェクト・ループがLOOP ACTIVEに設定されている時に有効になります。フット・コントローラーが接続されていないと、SOLOコントロールは効きません。
- 5.) SOLO機能は、OUTPUTコントロールのレベルよりも高く設定する事は出来ますが、低い設定にする事は出来ません。

役立つヒント(続き)

6.) GAIN(ゲイン)とTREBLE(トレブル)コントロールは、4つのチャンネル全てで、最も強力なコントローラーです。このコントローラーは、サウンドのテイストを決定する重要なものであり、良いサウンドは、このコントローラーを中位の領域にした時に生まれています。GAIN(ゲイン)を最大値にした場合は、TREBLE(トレブル)を2時よりも高い設定にしないで下さい。これをやってしまうと、必要ないノイズや、ハウリングが起こってしまいます。

7.) チャンネル3 & 4で、RAW(ロウ)あるいはVINTAGE(ビンテージ)モードから、MODERN(モダン)モードに切り替えると、音量が相当大きくなります。モードを切り替えるときは、いきなり音が大きくならない様に、必ずMASTER(マスター)コントロールをチェックにしてください。モードを切り替えるたびに、チャンネルのMASTER(マスター)コントロールを0から上げていく事を癖にすると良いでしょう。

8.) PRESENCE(プレゼンス)コントロールは、ゲイン・サウンドのボイスイングを決定づける、大きな要素です。これを低めの値に設定すると、チャンネル3 & 4の3つのモードでは、太くて、圧縮の効いたサウンドになり、弦の振動に、瑞々しさが加わります。高めの設定にすると、サウンドに切れと明るさが加わります。クランチ・リズム・サウンドを求めているなら、GAIN(ゲイン)の設定も高めにする事で、低音域のタイトさもキープする事が出来ます。

9.) **スピーカー・キャビネットを1台しか使用しない場合は、必ず“B”SPEAKER OUTPUTに、ダミーのショート・プラグを差し込んでおいて下さい。**これにより、SPKRスイッチが“A+B”や“B”になっている時に、出力トランスのダメージを防ぐ事が出来ます。

10.) チャンネル3 & 4は、モードの構成が同じですが、PRESENCE(プレゼンス)コントロールの特性が異なりますので、つまみを同じ位置にしても同じサウンドにはなりません。チャンネル3のPRESENCE(プレゼンス)コントロールは、RAW(ロウ)あるいはVINTAGE(ビンテージ)モードに最適化されていますので、高めの設定にすると“とても明るく”なりますが、一番低い設定にすると、丸いサウンドになります。この特性は、この2つのモードで、暖かみのあるサウンドを求めている時に最適です。一方、チャンネル4のPRESENCE(プレゼンス)コントロールはとても強力で、MODERN(モダン)モードに最適化されていますので、高めの設定にすると、途方も無いサウンドになります。MODERN(モダン)モードにする時は、2時位までにしておいた方が良いでしょう。チャンネル3 & 4のPRESENCE(プレゼンス)コントロールの違いは、**チャンネル3のPRESENCE(プレゼンス)コントロールの全領域が、チャンネル4の10時位までの領域と考えれば良いでしょう。**プレーする時には、チャンネル3のMODERN(モダン)モードの時は、PRESENCE(プレゼンス)コントロールを高い設定にして、反対に、チャンネル4のRAW(ロウ)あるいはVINTAGE(ビンテージ)モードの時は、PRESENCE(プレゼンス)コントロールをとて低く設定しなければならないという事です。

ノート: チャンネル3 & 4: RAW(ロウ)あるいはVINTAGE(ビンテージ)がお好みで、攻撃的なMODERN(モダン)なんて必要ないと言う方、あるいはその反対に、切れ味鋭いMODERN(モダン)がお気に入り、RAW(ロウ)やVINTAGE(ビンテージ)じゃ物足りないという方、それぞれいらっしゃるでしょう。また、PRESENCE(プレゼンス)コントロールを同じにしたいという方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私達は、ロード・キングの潜在能力を最大限に発揮させる方法を、もっと追求する事を強くお勧めします。それを探し求める事に時間を費やす事で、ロード・キングへの愛着も増しますし、ロード・キングの奥底に眠る可能性を引き出す事も出来るのです。

リバーブをかけているチャンネルの切り替えや、リバーブのオン/オフをフット・コントローラーで行うと、ドライ・シグナルにリバーブが掛かるのに、1-2秒の間があいてしまいます。この事に関する詳細は、リア・パネル・セクションのリバーブの下のノートをご覧ください。

いくつかのヒントを手に入れた所で、コントローラーやモードに関して詳しく見ていきましょう。

チャンネル・モード:

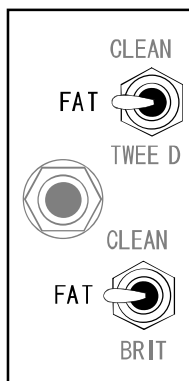
チャンネル1&2: CLEAN (クリーン)



これは、ロード・キングの12種類のモードの中で、1番ゲインが低い回路を使用しており、バランスのとれた、ピュアでクリーンなサウンドに適しています。このモードは、チャンネル2でも同じですので、クリーン・サウンドのバリエーションを広げることが出来ます。このモードで素晴らしいサウンドを生み出す為に理解しておかなければならない事は、このマニュアルのゲイン・チャンネル・セクションを参照して下さい。まずは、コントローラーを12時半にしてみます。これより低いときらびやかなサウンドになり、これより高いと暖かみのあるサウンドになります。あとは、ギター独自のレスポンスやサウンド・キャラクターによります。

伝統的な回路で構成されるこのモードは、ビンテージ・スタイルのドライブ・サウンドにも向いています。GAIN(ゲイン)を右に回しきると、懐かしの美しいソロ・サウンドを生み出します。特にシングル・コイル・ピックアップとの相性は抜群です。TREBLE(トレブル)とMID(ミドル)コントロールを追加すると、ゲインが増して音のサスティーンを伸ばす事が出来ます。この場合、プレゼンスは少し抑えめにすると良いでしょう、そして、BASS(バス)コントロールは10時半よりも低い設定にして下さい。それよりも高くすると、低音域の締めりがなくなり、アタックがぼやけたサウンドになってしまいます。

チャンネル1 & 2: FAT (ファット)



このモードは、弊社のオリジナルMark I ブギーを継承しており、ロー・ミッドとボトム・エンドをより強調しています。その結果、ギターの6弦のサウンドが、太く、荒々しくなっています。このモードは、チャンネル2でも同じですので、サウンドのバリエーションを広げることが出来ます。CLEAN(クリーン)モードとの違いは、単音のソロ・サウンドに於ける、音の厚みと暖かさに出ます。FAT(ファット)モードの方が音の厚みと暖かみが増します。この2つのモードは大きく異なりますので、コントローラーは全く別と思った方が良いでしょう。コード・サウンドにおいては、BASS(バス)コントロールがキーになります。

このモードで良いサウンドを得るには、GAIN(このマニュアルのゲインコントロール・セクションを参照して下さい)も大きな役割を果たします。このモードで広がりがあるヘッドルームの大きなコード・サウンドを得る為には、GAIN(ゲイン)を10時半から12時位に設定すると良いでしょう。

単音のクリーンなソロ・サウンドが欲しい時は、1時から2時くらいが最適です。押しの強いリズム・サウンドの場合は、GAIN(ゲイン)を右に回しきって、BASS(バス)を9時半より低い設定にすると、低音のだぶつきが無い良いサウンドになります。

チャンネル1: TWEED (ツイード)



TWEED(ツイード)は、チャンネル1にしかないモードであり、両方のチャンネルにあるCLEAN(クリーン)モードのバリエーションです。低ゲインのクリーンな回路から生み出される、しなやかで躍動感のあるサウンドは、ビンテージな雰囲気も持っています。このモードは演奏し易く、弦の振動がそのまま音に現れます。それは、あたかも実際の弦の太さより細い弦を弾いているかのような感覚です。その感覚は、このアンプのサウンドがもたらしているのです。

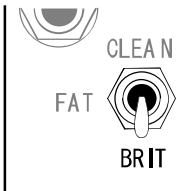
このキャラクターは、リア・パネルのチャンネル1のパワー・セクションのモードを、2x6L6にする事で、より顕著になります。この軽快で明るいパワー・フィーリングは、**TWEED(ツイード)**との完璧なコンビネーションで、このアンプ全体のサウンド・クォリティーを、押し上げています。

このクリーン・サウンドに対するアプローチがお好みでしたら、この手順をさらに発展させて、A.C. POWER SELECT(パワー・セレクト)スイッチをSPONGY(スポンジー)にして、電源電圧を少し落とした時の、サウンドの変化を試してみたいでしょうか。ヘッドルームの小さなサウンドもヘッドルームの大きなサウンドも、この**TWEED(ツイード)**モードは、クリーン・パフォーマンスのあらゆるスタイルに対応出来る、素晴らしいボイスを提供します。

チャンネル・モード:

チャンネル2: BRIT (イギリス風)

チャンネル2 だけにあるモードで、名前が示している様に、50年代、60年代のイギリスのサウンドを彷彿させます。これらのクラシック・アンプは、基本的に“上下逆さまのレオ回路”を採用しています。しかし、このアンプでは5極管にヨーロッパ・スタイルのEL34を搭載しているおかげで、ただのクラシック・アンプにとどまる事はありません。回路内での違いはわずかですが、サウンドの違いは、アメリカで生まれた、ツイードや、ブラック・フェース・アンプを凌ぐほどです。

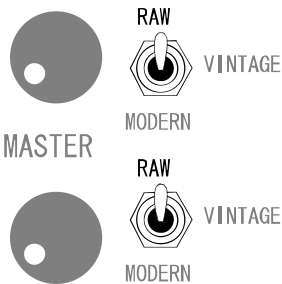


我々は、いくつものクラシック・アンプの回路を、素晴らしい品質にまとめあげました。このモードは、チャンネル1 & 2の他のモードと異なり、トレブルを低い領域に設定しても、ロー・ミッドにパンチがあるサウンドに仕上がっています。このモードは、コード・サウンドにも、単音の太いソロ・サウンドにも最適です。また、ハイ・エンドが少し減衰して、中音域が幅広いクリップ・サウンドは、クールなクランチ・リズムを刻みます。

言うまでもありませんが、2x EL34パワー・セクションは、このモードの為に生まれたのであり、この2つのパートを組み合わせる事で、真価を発揮します。このキャラクターは、TWEED (ツイード) モードと2x 6L6パワー・セクションの組み合わせとは対極を成しています。また、BRIT (イギリス風) モードは、2x 6L6 + 2x EL34パワー・セクションや4x 6L6 + 2x EL34パワー・セクションとの相性も抜群です。これら2つの選択肢は、EL34の緊迫感と同時に、ヘッドルームも必要な場合に最適です。こういった選択肢の多さは、ロード・キングの多様性を表しており、これにより、バラエティーに富んだ、音作りを可能にしているのです。

チャンネル3 & 4: RAW (ロウ)

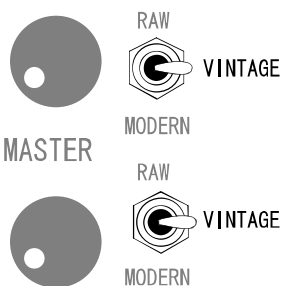
この新たなロード・キング・モードは、2つの高ゲイン・リード・チャンネルの3つのモードの中では、最もゲインが低くなっています。この2つのリード・チャンネルが生み出す、歪みの少ないサウンドは、汎用性に富んだサウンドの宝庫を、さらに大きなものにしていきます。使用可能なゲインの幅は信じられない程広く、クリーン・モードの2倍に達します。低ゲインのブルース・サウンドからクランチ・リズム・サウンド、そして焼けるようなソロ・サウンドまで、幅広いジャンルを網羅しています。



クランチ・リズム・サウンド向けのRAW (ロウ) モードで、TREBLE (トレブル) を比較的高め (2時) に設定すると、ゲインが少し増えて、音に切れが出てきます。チャンネル4では、PRESENCE (プレゼンス) コントロールのカーブ特性によって、ビンテージ・サウンドがより攻撃的になります。チャンネル3 & 4のRAW (ロウ) モードでは、中位のゲインの驚くべきソロ・サウンドのポテンシャルも見落とさないで下さい。それは、PRESENCE (プレゼンス) コントロールの緩やかなカーブ特性によるものであり、レンジの広い歌声のような単音ソロ・サウンドを提供します。

チャンネル3 & 4: VINTAGE (ビンテージ)

この高ゲインのモードは、有名なリキッド・レクト・ボイスと、チャンネル3 & 4オリジナルのサウンドを生み出します。その瑞々しい、倍音成分が豊富なサウンドはクリーミーで、多くのレコーディングに使用されており、多くの人の頭に焼き付いているサウンドは、多くのアルバムに記録されています。ジューシーなサウンド、レクト・ブラック・マジックの様に印象的なプリ・アンプ、真空管整流のパワー・セクション、これら全てが一体となって作り出すサウンド・カラーは、多くのプレーヤーを中毒にさせてしまいます。VINTAGE (ビンテージ) モードの音楽的で自然なコンプレッションは、単音のソロ演奏に於いて、弦が変わったと錯覚させる程、うまくプレーさせてくれます。VINTAGE (ビンテージ) モードのコントローラーを低い設定にする事で、RAW (ロウ) モードとオーバーラップする、微妙なニュアンスのサウンドにする事も出来ます。



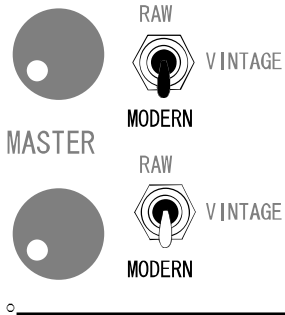
この2つのモードは、VINTAGE (ビンテージ) のコントローラーを、低い領域に設定した状態と、RAW (ロウ) モードのコントローラーを、中位から高い領域に設定した状態が似ています。また、そのキャラクターは、独特で個性的です。さらに、チャンネルを反対にする事で、異なるボイス

のビンテージ・サウンドにする事が出来ます。これにより、大きなサウンドの海から、また1つ新たなサウンドを発見する事になるでしょう。

チャンネル・モード(続き):

チャンネル3 & 4: MODERN(モダン)

アグレッシブ。この単語程ロード・キングのこのモードを端的に表現している言葉は無いでしょう。3 & 4がロード・キングのオリジナル・サウンドになっています。軽快で素早いレスポンスから生み出される、荒々しく、攻撃的なサウンドは、ハード・コア・サウンドの新たなスタンダードになりつつあります。



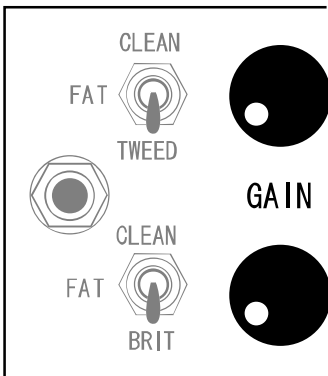
基本的には高域のソリッドさを維持しながら、低域のレスポンスにタイトさが加わった**MODERN**(モダン)モードは、ゲイン設定を極端にしても音がつぶれる事無く、各ノートの粒立ちがはっきりしています。チャンネル3で**MODERN**(モダン)モードを使用する時は、チャンネル4の時よりも**PRESENCE**(プレゼンス)コントロールの効きが弱い事を思い出して下さい。

MODERN(モダン)モードで単音のソロ・サウンドを求めているのなら、チャンネル3にすると、微妙なコントロールが可能になります。

コントロール:

GAIN(ゲイン):

このつまみで、各チャンネル回路へのゲイン・レベルを調整します。ロード・キングには、1つのシャーシの中に、3基のマルチ・モード・アンプが内蔵されており、各チャンネルは独立しています。**GAIN**(ゲイン)コントロールつまみも、それぞれ専用を用意されていて、回路も独立しています。



ほとんどのギター・アンプ、とりわけ全真空管回路においては、プリアンプの**GAIN**(ゲイン)コントロールが最も重要なコントローラーになります。**GAIN**(ゲイン)コントロールは、全体のスタイル、そして、クリーン・サウンド、オーバードライブ・サウンドといった、サウンドのキャラクターを決定づける役割を担っています。ロード・キングにおいて、**GAIN**(ゲイン)コントロールは、さらに強力です。**GAIN**(ゲイン)コントロールは、ドライブの量を決めるだけでなく、トーン・コントロール全体を決定づける役割を担っているのです。

GAIN(ゲイン)コントロールをわかり易くする為、2通りの説明をします。**1**; **GAIN**(ゲイン)コントロールのみ、**2**; トーン・コントロールとの組み合わせ

1) GAIN(ゲイン)コントロールを3つの領域に分けて、それぞれのトーン・キャラクターをコントロールします。

低(7時から11時)この領域はクリーン・サウンドです。歪みが最も少なく、明るく、高次倍音を豊富に含んだサウンドが特徴です。

中(11時15分から2時)この領域は、歪みが強調され、高次倍音の成分が変化し、豊かで暖かみのあるサウンドになり、それに加えて低域のレスポンスも向上します。まだ飽和しきるところまではいっていませんが、3つのチャンネル全てで、この領域が最も扱い易いといえるでしょう。この領域がロード・キングのベスト・サウンドの多くを生んでいます。特にソロ・サウンドにおいては、表現力に富んだアタック・レスポンスと、サスティーンが絶妙にブレンドされています。

高(2時15分から5時)この領域は、低域から中低域にかけての信号が歪んでいます。最大限の歪みを得る事によって、サウンドのサスティーンを生み出しています。それと同時にコンプレッションがかかるので、アタックが柔らかくなります。これらの事を総合的に考えると、この領域は、サウンドにサスティーンを必要とする時のみにした方が良いでしょう。

コントロール(続き):

ノート: ロード・キングは、凄まじいばかりのゲイン・ポテンシャルを持っているので、ゲインを高くしすぎると、プリアンプ管でハウリングを起こしてしまう事があります。弊社では、アンプの真空管に対しても厳格なテストを施し、合格したものをアンプに組み入れています。あまりにも高いゲインの入力に曝される事が多いと、真空管の寿命は縮まっています。真空管を未永く使用いただく為にも、高すぎるゲイン設定は出来るだけ避ける事をお勧めします。

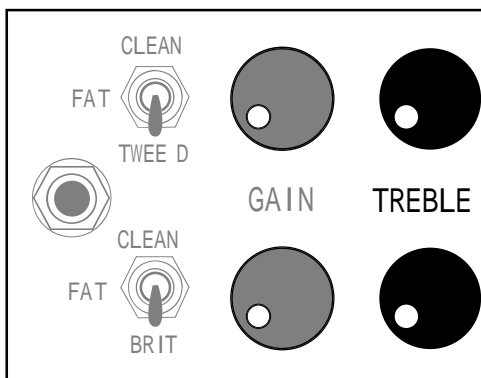
ボリュームが小さいと感じたら、TREBLE(トレブル)やPRESENCE(プレゼンス)の設定も確認して下さい。ロード・キングは、極端な設定をしなくても、充分ゲインやトーンのコントロールが出来る様に設計されています。なかなか思うようなサウンドのクオリティーが得られない時は、アンプ以外、例えば、ギターのパickaアップ、スピーカー・キャビネット、エフェクト・プロセッサ等に問題があるかもしれません。

2.) GAIN(ゲイン)-トーン・コントロールとの組み合わせ- まず、基本的に守るべきルールがあります。それは、ゲインを上げ過ぎないこと。ゲインを5時等といった高すぎる設定にしてしまうと、トーン・コントロールをいくら調整しても効果は得られません。以前の項でも述べましたが、ゲインは中位を基本にして微調整をする様にして下さい。そうする事で、トレブル、バス、プレゼンスといったトーン・コントロールが生きてくるのです。

TREBLE(トレブル):

ほとんどの真空管ギター・アンプにおいて、TREBLE(トレブル)コントロール(ロード・キングの4つのチャンネル全て)は、GAIN(ゲイン)コントロールの次に強力なコントローラーといえるでしょう。その理由は、トーン・コントロールの信号経路で最初に通るという事です。信号はその後、ミドル、バスと流れていきます。ですから、3バンドの中でも、TREBLE(トレブル)

コントロールの設定はとても大切です。ロード・キングのトーン・コントロールは、ほとんどがTREBLEで行われ、その後、MIDDLE(ミッド)BASS(バス)の順に流れていきます。



トレブルには、明らかにスイート・スポット(効果が高いポイント)があります。それは、中位の領域(11時から1時半)です。そして、TREBLE(トレブル)と他の2つのトーン・コントロールのバランスが大切であるという事も覚えておいて下さい。

音作りをしていると、たまに大胆な事をしたくなって、ロード・キングのチャンネル1のTREBLE(トレブル)を強めにしてしまう事があるかもしれません。

3つのモード(クリーン、ファット、ツイード)全てにおいて、TREBLE(トレブル)コントロールは強力です。クランチ・サウンド用のTWEED(ツイード)モードでは特に効果的です。PRESENCE(プレゼンス)コントロールを使用して同様の効果を得ようとすると、コンプレッションのかかった、太いサウンドになります。また、このようなコントロールをしすぎると、BASS(バス)コントロールの効果がなくなってしまいます。音作りはバランスを考慮しながら行う様にして下さい。これは結果的に、チャンネル1のTWEED(ツイード)モードでは、TREBLE(トレブル)コントロールを、2時半よりも高い設定にしない方が良いという事に繋がるのです。

MID(中域):

MID(中域) コントロールは、サウンドの中域の周波数帯を、どの程度強調するかを調整します。このコントロールは、トレブル程劇的な効果は望めませんが、ロード・キングのサウンドを決める上で重要な役割を果たします。**MID(中域)** コントロールは主に、サウンドが柔らかく感じられるか、固く感じられるかといったニュアンスをコントロールします。

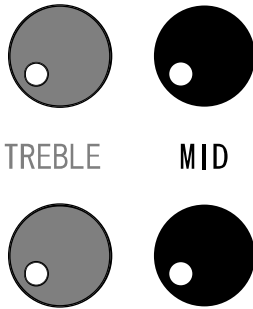
MIDDLE(ミドル) コントロールを低め(7時から11時)に設定すると、中域が少なくむしろ低域が少し強調された感じになり、パンチの無い、コンプレッションの掛かったようなサウンドになります。**MIDDLE(ミドル)** コントロールを少し強め(11時半から1時半)にすると、丸みのあるサウンドになり、中域のアタックが素早くなります。

コントロール(続き):

MID(中域):

MIDDLE(ミドル) コントロールを、これよりも上の領域(2時から5時)にすると、ゲインが大きくなり、明瞭度が増していきます。これにより、サウンドは太くなり、コンプレッションがかかった感じはやや少なくなります。また、このコントローラーは、出力の小さなピックアップの音量を補正したり、ピッキングの強さによる、サウンドの変化を調整するのに向いています。

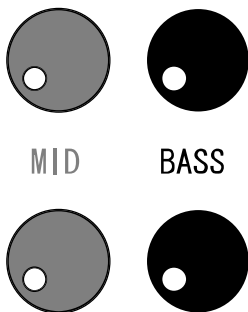
チャンネル1 & 2の**MIDDLE**(ミドル) コントロールは、チャンネル3 & 4と、異なるカーブ特性と値に設計されています。低め(12時未満)に設定すると、通常の中域コントローラーとして動作しますので、中域の増し方もノーマルです。7時から10時半位で、クリーン・サウンドになり、これにトレブルと、バスのコントロールを加えることで、さらに純粹でクリーンな、弾けるようなサウンドになります。



チャンネル1 & 2の**MIDDLE**(ミドル) コントロールを、1時を超える設定にすると、ゲインが増して、中域に切れとパンチが出てきます。これをさらに高い(3時から5時)設定にすると、**CLEAN**(クリーン)モードと、**TWEED**(ツイード)モードで極端な設定をした時のような、ゲインを得る事が出来ます。**MIDDLE**(ミドル) コントロールを、高い設定にする場合は、他のトーン・コントロールの設定は抑えめにした方が良いでしょう。チャンネル1 & 2の**MIDDLE**(ミドル) コントロールの柔軟性の高さが、チャンネル1 & 2のサウンド・バリエーションの豊富さを支えているのです。

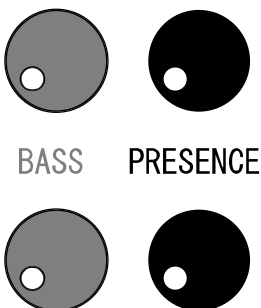
BASS(バス):

BASS(バス)は、トーン・コントロールの信号経路の中で一番最後になります。このコントロールは、4つのチャンネルに個別に動作し、サウンドの低域の量をコントロールします。しかし、実際の効き具合はチャンネル毎に変化します。**MIDDLE**(ミドル) コントロールの時と同様に、信号は**TREBLE**(トレブル) コントロールを通った後に来ますので、**TREBLE**(トレブル) コントロールの設定が高いと、**BASS**(バス)と**MIDDLE**(ミドル) コントロールの効果は少なくなってしまいます。反対に**TREBLE**(トレブル) コントロールの設定が低いと、**BASS**(バス)と**MIDDLE**(ミドル) コントロールの効果は大きくなります。



3つのトーン・コントロールで、最もバランスのとれたサウンドやパワーを生み出す為には、まず**TREBLE**(トレブル) コントロールを中位に設定する事から始めて下さい。これにより、それぞれのトーン・コントローラーが本来の働きをする事が出来るようになります。

PRESENCE(プレゼンス):



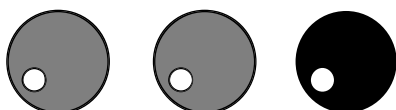
PRESENCE(プレゼンス) コントロールは、プリアンプの最終ステージにある高音域のアッテネーターであり、**TREBLE**(トレブル) コントロールよりも高い音域に影響を与えます。プレゼンス・コントロールは、他のトーン・コントロールとは独立して動作します。**PRESENCE**(プレゼンス) コントロールを低めに設定すると、暗めのサウンドになり、太くてコンプレッションのかかった、単音のソロ・サウンドに向いた音になります。ロード・キングの中でも良いリード・サウンドは、**PRESENCE**(プレゼンス) コントロールが低めに設定されており、バランスのとれた、ボーカルのようなレスポンスを生み出しています。

プレゼンス・コントロールを高めに設定すると、ロード・キングは解き放たれて、チャンネル1 & 2では、弾けるようなクリーン・サウンドを、ハイ・ゲイン・モードでは、アグレッシブなクランチ・リズム・サウンドを生み出します。**PRESENCE**(プレゼンス) コントロールは、チャンネル3の**MODERN**(モダン)に隠されているサウンドを引き出してくれます。

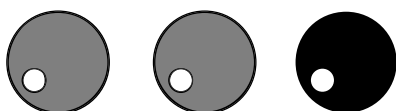
コントロール(続き):

MASTER(マスター):

このコントローラーは、プリアンプの最終段の出力レベルをコントロールします。そして、ここでコントロールされたレベルで、ドライバー・ステージやエフェクト・ループに送られます。**MASTER(マスター)**コントロールは、チャンネル毎に独立していますので、4つの各チャンネルは、互いになんの影響を受ける事も無く、それぞれの出力音量を設定する事が出来ます。**MASTER(マスター)**コントロールは、ロー・ゲイン・サウンドを大きなボリュームで鳴らす事も、ハイ・ゲイン・サウンドを小さな音量で鳴らす事も出来る、幅広い能力を備えています。



BASS PRESENCE MASTER

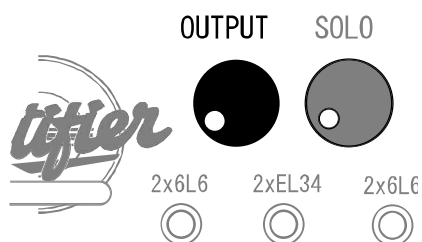


広いレンジの中でも、特に微妙なコントロールが効く範囲は、9時から2時の間です。出来る限り、この範囲で調整した方が、エフェクト・ループを使用する場合も、より良い結果が得られるでしょう。

ノート: **MASTER(マスター)**コントロールは、エフェクト・ループへの送りのレベルもコントロールしているので、これを極端に高い設定にすると、過大な信号がエフェクト・プロセッサーに送られる事になり、結果的に、エフェクト・プロセッサーの入力段で、オーバーロードする事になってしまいますので、注意が必要です。

OUTPUT CONTROL(アウトプット・コントロール):

これは、アンプの最終的な出力レベルをコントロールします。パワー・セクションの入力部に位置しており、4つのチャンネルの各チャンネル・マスターでコントロールされた音声信号を出力する、最終的なレベルをコントロールします。**OUTPUT(アウトプット)**には、LOOP 1とLOOP 2のEFFECTS RETURN(エフェクト・リターン)ジャックへの信号が出力されますので、このコントロールは、EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ)がLOOP SYSTEM ACTIVE(ループ・システム・アクティブ)に設定されている時のみ有効です。LOOP BYPASS(ループ・バイパス)に設定されていると、各チャンネルのチャンネル・マスター・コントロールが最終的な出力レベル設定になります。



ノート: ロード・キングをパワー・アンプとして使用する

プリアンプは他の製品を使用して、ロード・キングをパワー・アンプとして使用する事も出来ます。大規模な会場で、ステレオ・パワーの片方として、あるいは、もう

1台のロード・キングのスレーブとして使用する方法です;

- 1.) 他のプリアンプの出力を、LOOP 1のEFFECTS RETURN(エフェクト・リターン)ジャックに接続する。
- 2.) リア・パネルで、LOOP ACTIVE(ループ・アクティブ)に設定する。
- 3.) OUTPUT CONTROL(アウトプット・コントロール)で、出力レベルを調整する。
- 4.) チャンネルのPRESENCE(プレゼンス)コントロールを調整する。
- 5.) チャンネルを選択して、そのチャンネルのパワー設定をする。

パワーを異なるチャンネルに変更する様にプログラムしておいて、フット・コントローラーでチャンネルを選択しても、全てのプログレッシブ・リンケージ・スイッチング・パワー機能は、動作しています。ロード・キングは、スイッチング機能を使わずに、本体のリア・パネルのチャンネル・ストリップで、1つのチャンネルの設定をして、使用する事も出来ます。

チャンネル毎のプリアンプを、それぞれ別のパワー・セクションで増幅しますので、チャンネルを切り替えると、そこに音量差が発生する事を覚えておいて下さい。これをうまく利用する事で、表現の幅を広げる事が出来ます。プログレッシブ・リンケージ・スイッチング機能は、弊社のTriAxis(トライアキス)の様にプログラム可能な真空管プリアンプや、もう1台のロード・キングと並列で使用する事も可能です。

この使用法は、ネガティブ・フィードバックが無くなってしまい、パワー・アンプに対する負荷が、極端に大きくなってしまいますので、チャンネル3 & 4のMODERN(モダン)モードで、この使用法は、お勧め出来ません。EFFECTS LOOP RETURN(エフェクト・ループ・リターン)をパワー・アンプの入力端子として、4チャンネル全てを使用する場合は、チャンネル1 & 2のCLEAN(クリーン)モードか、チャンネル3 & 4のRAW(ロウ)モードを使用する事を推奨します。

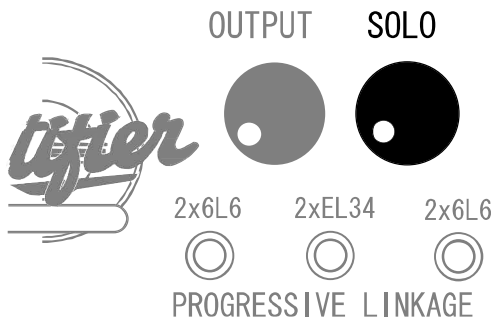
コントロール(続き):

OUTPUT CONTROL (アウトプット・コントロール):

この使い方であれば、入力感度がある程度一定ですので、出力ボリュームを、パワー・アンプで調整する事が出来ます。

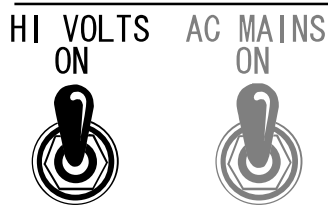
SOLO(ソロ):

このコントロールは、メイン・アウトプットに並列に接続されており、予め設定したレベル(元のレベルよりも高いレベル)に、演奏の途中で切り替える機能であり、アンプに、信じられない程のポテンシャルを与えてくれます。OUTPUT(アウトプット)コントロール同様、**SOLO**(ソロ)も、LOOP1とLOOP 2のEFFECTS RETURN(エフェクト・リターン)ジャックへの信号をコントロールしますので、EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ)がLOOP SYSTEM ACTIVE(ループ・システム・アクティブ)になっている時のみ有効になります。このコントローラーは、ソロになった時に音量を上げたり、スイッチングした時の音量差を、補正したりする為に使用する事が出来ます。1つの例としては、LOOP(ループ)経由で接続したプロセッサーによる、ゲインの減衰が考えられます。このような場合でも、**SOLO**(ソロ)機能がゲインの減衰を補ってくれるのです。



ノート: 上述した様に、ロード・キングをスレーブのパワー・アンプとして使用する場合は、**SOLO**(ソロ)コントロールを、パワー・アンプのフット・スイッチ切り替え式ボリューム・ブースターとして使用する事が出来ます。

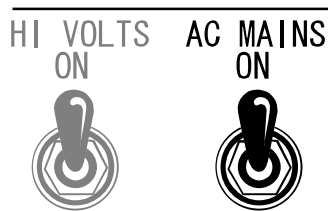
HIVOLTS(ハイボルト):



このトグル・スイッチは大変重要な役割を担っています。このスイッチがスタンバイの位置にある時は、真空管はまだ準備段階で、ウォームアップをしています。電源を入れる時は、このスイッチがスタンバイの位置にある事を確認して下さい。

電源を入れてから、最低30秒の時間をおいてから、このスイッチをオンにする様にして下さい。そうする事で、真空管のトラブルを予防出来ますし、良い音で使用出来る期間が長くなります。

AC MAINS (電源スイッチ):



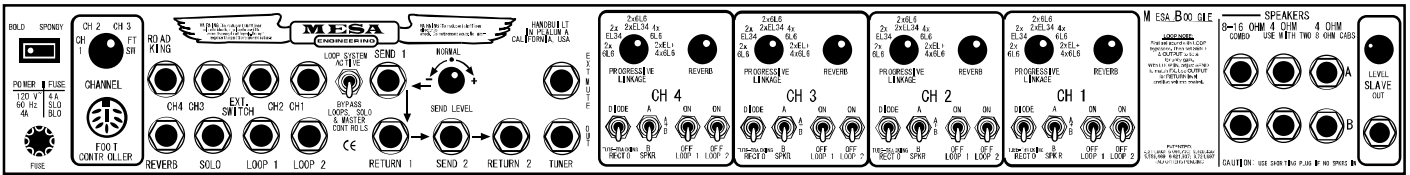
これは、ROAD KINGに電源を供給するためのスイッチです。電源のアースがとれている事を確認して下さい(これは、アンプのみならず、演奏者の安全の為にも重要な事です)。また、コンセントに適正な電圧が供給されている事を確認して下さい。

メモ: 電線ケーブルは、絶対に他のものを使用しないで下さい。アンプを損傷したり、火事の原因になる事があります。

フロント・パネルのチャンネルとモードについての理解を深めた所で、次は、リア・パネルについて、詳しく見ていきましょう。

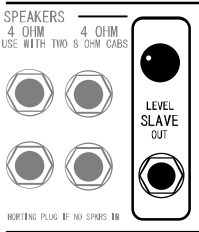
バックパネル:コントロールと機能:

バックパネル:



SLAVE(スレーブ):

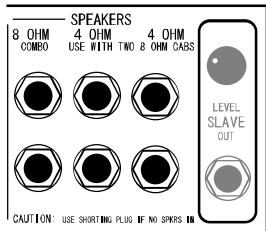
このフォーン端子とコントローラーは、スピーカー出力端子への信号を分岐しています。ROAD KINGのヘッド・バージョン、あるいはコンボ・バージョンを、マスター・プリアンプとして使用して、必要であれば、パワーアンプを追加する事が出来ます。プレーヤーによっては、SLAVE(スレーブ)をエフェクト・プロセッサへのセンドとして使用し、他のアンプをウェット用として使用している場合もあります。



ノート:スレーブからの信号を、FX ループ・リターン・ジャックに接続すると、フィードバックが発生してしまいます。フィードバックが発生すると、PAシステムにマイクを向けた時の様に、ハイリングが起こりますので、これは避けて下さい。

SPEAKER OUTPUTS (スピーカー出力端子):バンクA & B-キャビネット切り替え

ロード・キングには、8オームと4オームのスピーカーを接続する、スピーカー出力端子が装備されています。しかし前述した様に、このアンプは普通のアンプではありません...という事は、スピーカー出力端子も普通ではないのです。ロード・キングは、フットスイッチで切り替え可能なチャンネル・コンセプトで製作されていますので、スピーカー出力端子も、事前にアサインしておく事が出来ます。これにより、1つのパワー・セクションを、2つの異なるタイプのスピーカー・キャビネットに出力する事が出来るのです。たとえ、その2つのスピーカーのインピーダンスが、違っていても構わないのです。例えば、1つをオープン・バック・キャビネットに接続して、チャンネル1 & 2のクリーン・パフォーマンス用に、もう1つをクローズ・バック・キャビネットに接続して、チャンネル3 & 4のリード・サウンド用に、といった使い方が出来ます。さらに、オープン・バック・キャビネットと、クローズ・バック・キャビネットを同時に使用して、大音量のパフォーマンスをする事も可能です。これらの選択は、**SPKR A/B** で、チャンネル毎にアサインする事が出来ます。



ロード・キングは、スピーカー・インピーダンスのミスマッチに、それほど敏感ではありませんので、お好きなキャビネットをお使い下さい。ただし、ヘッドルームが若干落ちる事と、パワー管の負荷が少し増える事は覚えておいて下さい。

お好きなキャビネットをお使い下さい。ただし、ヘッドルームが若干落ちる事と、パワー管の負荷が少し増える事は覚えておいて下さい。

出力トランスに、常に負荷をかけておく事は、とても重要な事です!これを怠ると、出力トランスに損傷を与える事になり、これは、保証の対象外です。この理由から、ショート・プラグを同梱していますので、“負荷無し”を避ける為に、このプラグは必ず接続して下さい。工場出荷時には、このプラグは、スピーカー出力端子の“B”に接続されていますので、チャンネルの選択が、“B”あるいは“A & B”になっていても、出力トランスに負荷は掛かっています。

ノート:キャビネット切り替え機能を使用していない場合でも、ショート・プラグは、スピーカー出力端子の“B”に接続しておいて下さい。

ノート:キャビネット切り替えの際、数秒間両方のスピーカー・キャビネットから音が出ますが、これは、正常な動作です。これは、キャビネット切り替え時に、“負荷無し”を避けて出力トランスを保護する為の仕様です。

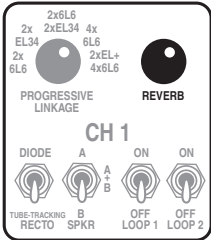
ノート:キャビネット切り替え機能を使用せずに、チャンネルを切り替えた時に、すこく小さな音しか出ない、ひどく歪んだ音しか出ない、あるいは全く音が出ない、等の場合は、SPKR ASSIGNのミニトグル・スイッチが“A + B”や“B”になっていないか確認して下さい。

ノート:8オームのキャビネット2台を、A, B 2つの4オーム出力端子に接続する場合は、SPKR A + Bを選択しないで下さい。2オームの負荷になってしまうので、パワー管を過度に酷使する事になり、寿命が短くなってしまいます。

バックパネル:コントロールと機能(続き):

REVERB(リバーブ):

この4つのロータリー・コントロールは、豊かなアナログ・リバーブの、ドライ/ウェットの割合をコントロールして、リバーブリターン回路に送り込みます。4チャンネルが独立しているので、それぞれ異なるリバーブ・ミックスにする事が出来ます。バックグラウンド的なエフェクトから、瑞々しく豊かな響きまで、幅広い調整が可能です。モード毎のゲイン構造、プリ・アンプのゲイン設定、チャンネル・マスターやアウトプット・コントロールの設定等、リバーブのトーンには、様々な要素が関係しています。一般的に、低ゲインの設定にすると、クリーンでピュアなリバーブ・エフェクト、高ゲインの設定にすると、派手なリバーブ・サウンドになります。この違いは、このタイプのリバーブ回路の一般的な特徴の1つです。

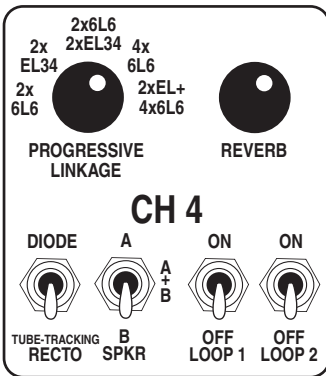


リバーブのオン/オフは、フット・コントローラーの**REVERB**(リバーブ) ボタンで行う事が出来ます。

ノート:リバーブのオン/オフや、チャンネルを切り替えると、リバーブ成分が加わるまでに1—2秒間掛かりますが、これは、正常な動作です。これは、切り替え時に、ノイズが音として発生しない様にする為に、ドライ音とエフェクト音を分けて、エフェクト音を短時間ミュートしている事によるものです。その瞬間は奇異に感じるかもしれませんが、数分も立てば、素晴らしいオーバードライブ・サウンドと、クランチ・リズム・サウンドでそんな事は忘れてしまいます。

CHANNEL STRIPS(チャンネル・ストリップ):

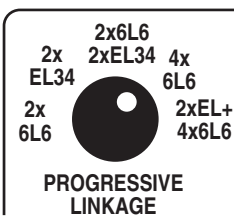
4つのミニ・トグル・スイッチと、2つのコントローラーは、各チャンネル毎に、事前にアサインしておく事が出来ます。4つとも構成は同じですので、1つ理解すれば大丈夫です。このパートは、ロード・キングの大きな秘密の1つです。



このセクションは、LOOP 1 & 2のオン/オフ、スピーカー・エンクロージャーの選択、整流器のタイプの選択、そして、プリ・アンプとパワー・セクションの組み合わせを決定する、最も重要な、プログレッシブ・リンケージのロータリー・コントローラーで構成されています。それでは、最も重要なコントローラーから見ていく事にしましょう。

PROGRESSIVE LINKAGE(プログレッシブ・リンケージ):

この5つのポジションのロータリー・コントロールは、今までのアンプに無い、強力な機能を有しています。4つのプリ・アンプそれぞれに、5種類の異なるパワー・アンプの組み合わせの中から1つをアサインして、それを、フットスイッチで切り替えられる機能です。この弊社が特許を有する機能は、ロード・キングで採用されたのが最初ではありません。1チャンネルのアンプ、BLUE ANGEL(ブルー・エンジェル)に搭載されたのが最初です。**PROGRESSIVE LINKAGE**(プログレッシブ・リンケージ)は、ロード・キングでマルチ・チャンネル・フォーマットに昇華され、様々なタイプのギタリストに、重宝される機能になっています。この、プリ・アンプとパワー・セクションを組み合わせるといふ、驚異的な機能の可能性を理解して、はじめてロード・キングの本質が解った事になります。選択肢は、左から右に行くにつれて、ワット数が大きくなっていきます。フロント・パネルには、**PROGRESSIVE LINKAGE**(プログレッシブ・リンケージ)の動作状況を表示する、LEDがあります。これは、離れた所からでも確認出来ます。それでは、それぞれの特徴について、解説していきます。



注意:リアパネルのPROGRESSIVE LINKAGEの切り替えを行う際は必ず電源をオフにした状態で行うようにしてください。電源を入れたまま切り替えを行うとヒューズや真空管が破損するおそれがあります。]*

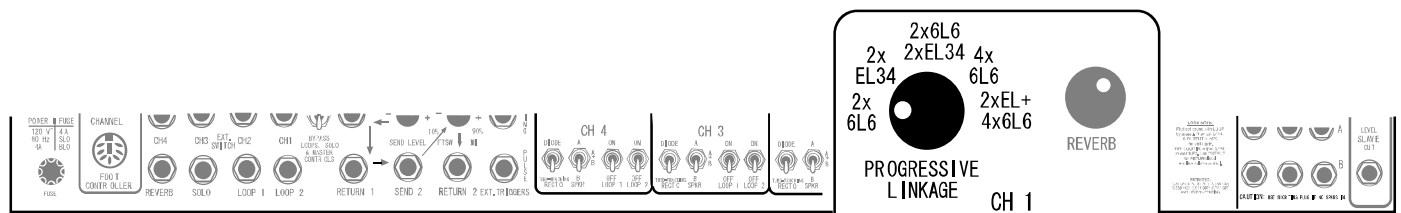
バックパネル:コントロールと機能(続き):

パワー管の選択:

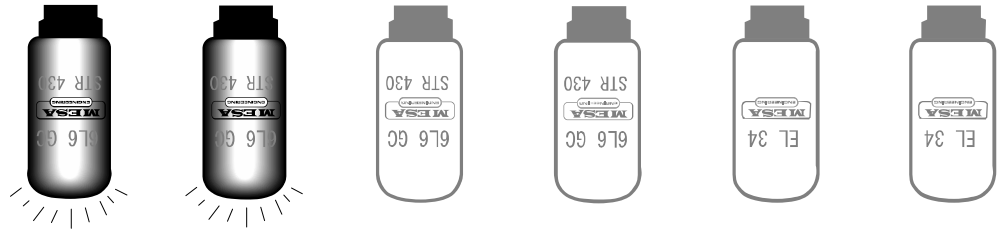
2x6L6

2x6L6は、おおよそ50ワットを出力し、どのプリ・アンプにも合う潑激としたサウンドが特徴です。低ゲインにも、高ゲインにも合う、周波数特性のバランスに、最も優れたモードと言えるでしょう。豊富なロー・エンドと、瑞々しいハイ・エンドを両立したサウンドは、効く人に心地良さを与えてくれます。このモードのビンテージ・ボイスは、ブラック・フェースの時代を彷彿させるクリーン・サウンドを生み出します。

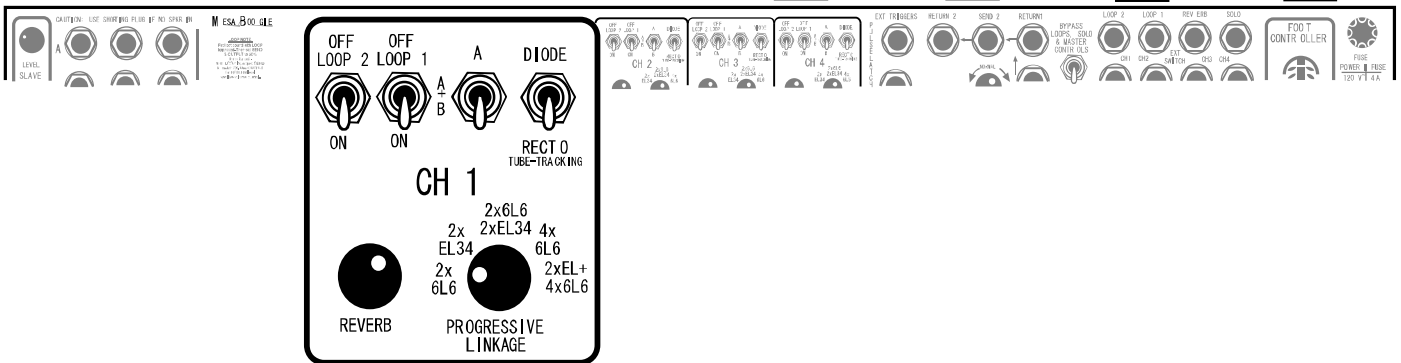
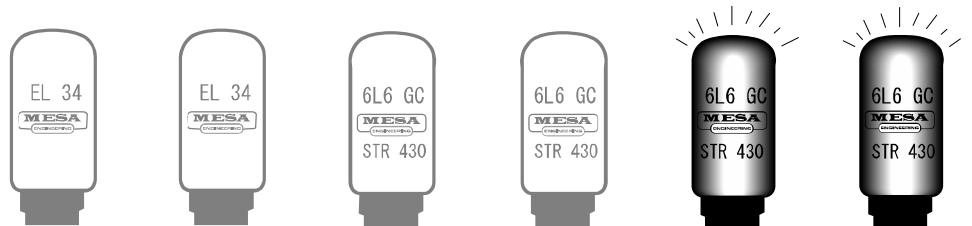
チャンネル1のTWEED(ツイード)モードと、2x6L6の組み合わせは、クリーン・ファンの耳を釘付けにする事でしょう。もう1つ、特徴的な組み合わせとしては、チャンネル3のRAW(ロウ)とVINTAGE(ビンテージ)が挙げられるでしょう。そのバランスと、自然な倍音の響きは、ゲイン・サウンドと相まって、クリーミーなトーンを醸し出します。全体的な特徴としては、しなやかで、弦の振動が直接伝わるような、プレー・スタイルのニュアンスを出し易い感覚があります。



コンボ・バージョン 2x6L6
(図面:バックパネル一部)



ヘッド・バージョン 2x6L6
(図面:バックパネル一部)

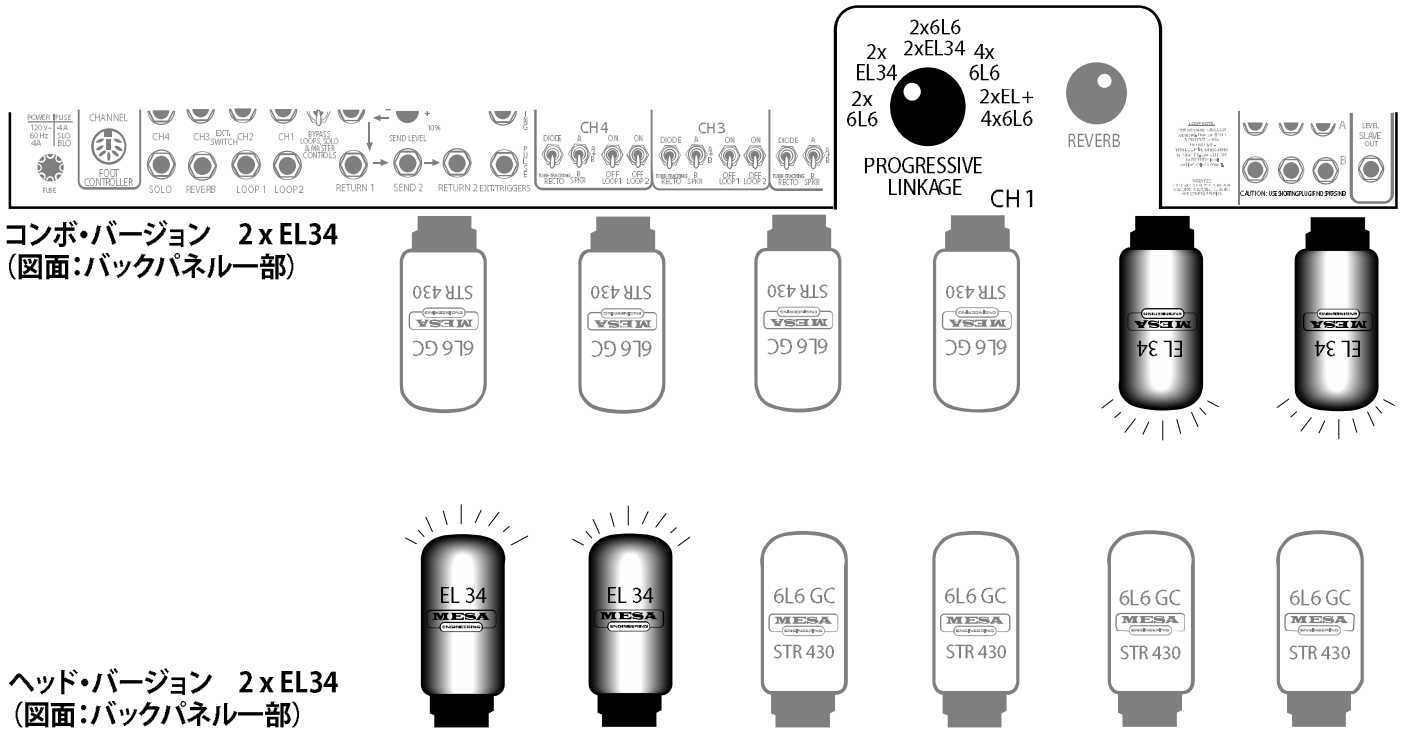


バックパネル:コントロールと機能(続き):

パワー管の選択(続き):

2xEL34

2xEL34は、出力は2x6L6に似ていますが、より耳元に迫ってくるような、強力なサウンドが特徴です。ここで強調しておきたいのは、ハイ・エンドに、より緊迫感があるという事です。この設定は、低ゲインにも、高ゲインにも有効ですが、ハイ・エンドは、メリハリが利いて、ロー・エンドは、ドライでクリーンなサウンドになります。また、エッジの効いたクリーン・サウンドは、チャンネル2のBRIT(英国風)モードでは、特にロー・ミッドに特徴のある、明るい真空管サウンドになります。



ELの倍音の広がり、6L6のバランスとは異なります。ヨーロッパ生まれの5極管は、6L6と比べると、挑戦的なサウンドです。そのサウンドは緊迫感に満ちており、超低音のパフォーマンスは、現代的な高ゲインのモッシュやメタル・サウンドに向いています。また、クリーンとクランチの間のサウンドは、豊富な倍音を含んでおり、トップ・エンドにはキレがあります。こういった特徴を持つサウンドは、ルーズな真空管レスポンスから生まれ、あらゆるロックンロール・サウンドに合います。さらに、チャンネル3 & 4のRAW(ロウ)モードとVINTAGE(ビンテージ)モードも試して下さい。元々ハイ・エンドが強いサウンドですので、PRESENCE(プレゼンス)の設定には、注意が必要です。

バックパネル:コントロールと機能(続き):

2xEL34(続き)

ノート:EL34の異なるタイプを使用すると、音の違いが如実に現れます。伝統的なドイツのシーメンス・タイプのサウンドは、明るくて自然なルーズさを持っており、EL34とは対極のサウンドになっています。こういった真空管は、もう既に製造されていませんので、手に入れたら、中古か、EL34マニアの間の流通に求めるしかありません。ロード・キングのオーナー向けには、若干ではありますが、オールド・ストックがありますので、弊社カスタマー・サービスへご連絡下さい。しかしこれらのパーツは、信頼性が低くなっていますので、その点はご了承下さい。そういったパーツは、レコーディング・スタジオのような、理想的な環境で使用することを推奨致します。ライブ等の環境で使用することは、あまりお勧め出来ません。

シーメンス・タイプの真空管は、数に限りがあります。工場出荷時に装着されているEL34は、このアンプに最も合っていると思われま。このEL34はロシア製で、キャラクターもシーメンスに似ています。出力も少しではありますが優っています。何より良いのは、真空管の信頼性が高い事、そして現在も製造しているので、手に入り易いという事です。少なくともライブ・ステージでは、こちらを使用することをお勧め致します。太いU.S.タイプ(6CA7としても知られている)は、6L6に似たサウンドを生み出します。そのサウンドは見た目似て、太くて肉付きの良いものです。そして、それはすぐにEL34との違いを聞き分けられるものではありません。また、この真空管も、信頼性は高くなっています。しかしながら、ツアーの最中は、全ての真空管とヒューズの予備は、全てをセットにして必ず携帯する事をお勧め致します。

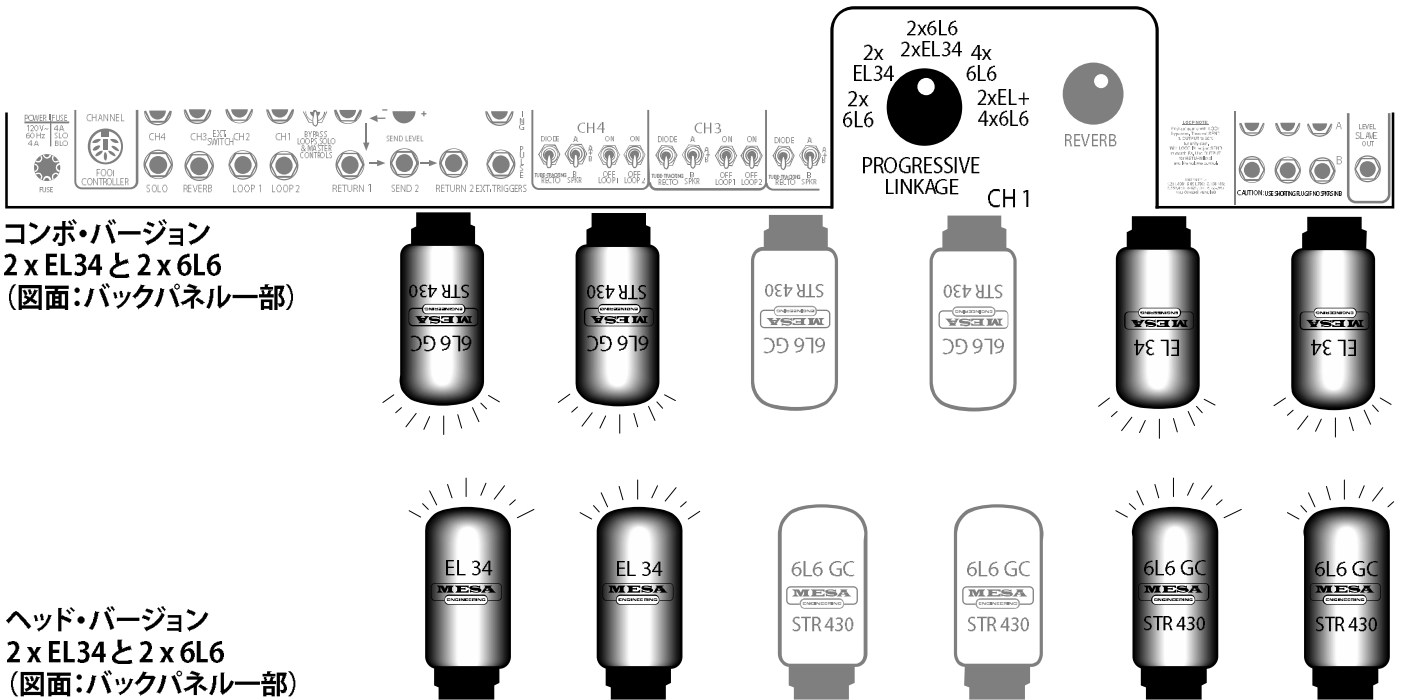
バックパネル:コントロールと機能(続き):

2xEL34 + 2x6L6

2x6L6 & 2xEL34 は、80年代中盤の、伝統的な真空管を採用したサイマル・クラスMark II-C アンプを再体験出来ます。この組み合わせは、当時LAのセッション界を席巻した、伝説のパワー・サウンドを生み出します。スティーブ・ルカー、マイケル・ランドウ、ダン・ハフ(その他世界中のギタリスト)といったプレイヤーが、こぞってそのユニークなサウンドの虜になり、様々なアルバムに、そのサウンドを刻み込みました。サウンドのキャラクターとしては対極を成す、この2つの5極管の組み合わせは、サイマル・パワー・セクションのワイヤリングを得て、今再び甦ります。

ロード・キングに於けるこの組み合わせは、別の意味を持っていますが、驚くべきサウンドを生み出す事に変わりはありません。このパワー・セクションは、クリーン・サウンドにもオーバードライブ・サウンドにも対応出来ますが、特にこの組み合わせは、**EL34**のクリーン・サウンドの不足を補うバランスに優れています。

ELの攻撃的で緊迫感のあるハイ・エンドに対して、**6L6**の中音域のパンチ、ロー・エンドの太さと明瞭度は、リード・サウンドにも、クランチ・リズム・サウンドにも、合っています。この2つのキャラクターが相まって生み出すサウンドは、今までに無く攻撃的でパワフルなものです。このサウンドを、チャンネル3 & 4のMODERN(モダン)モードで試して下さい。

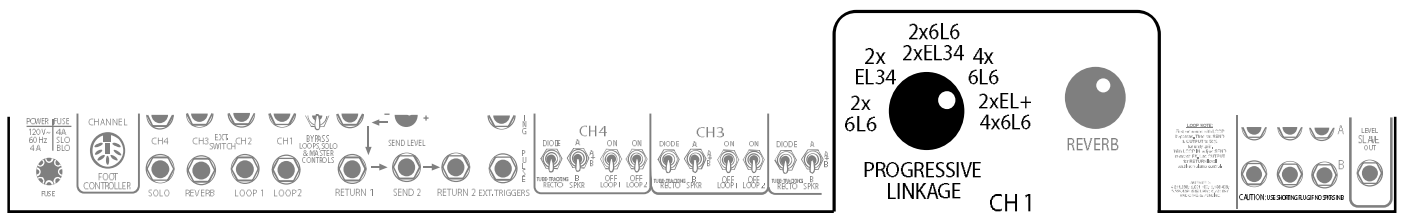


バックパネル:コントロールと機能 (続き):

4x6L6

4x6L6 は、ハイ・パワー向けの、真のパワー・セクションです。この伝統的な組み合わせは、ロード・キングの4つのプリ・アンプ・モードのどれとも、最もバランスが取れています。とてもタイトで、全周波数帯域に渡ってスムーズなレスポンスを示す、最も過激なオーバードライブ・サウンドを生み出します。また、この組み合わせは素晴らしいクリーン・サウンドも生み出します。6本のパワー管全てをドライブすると、確かに超ハイ・ボリュームのプレーには良いかもしれませんが、純粋なクリーン・サウンドのブレンドにおいては、**4 x 6L6** には敵いません。この組み合わせのパワー・セクションは、デュアル・レクティファイアにおいて、既に成功しています!

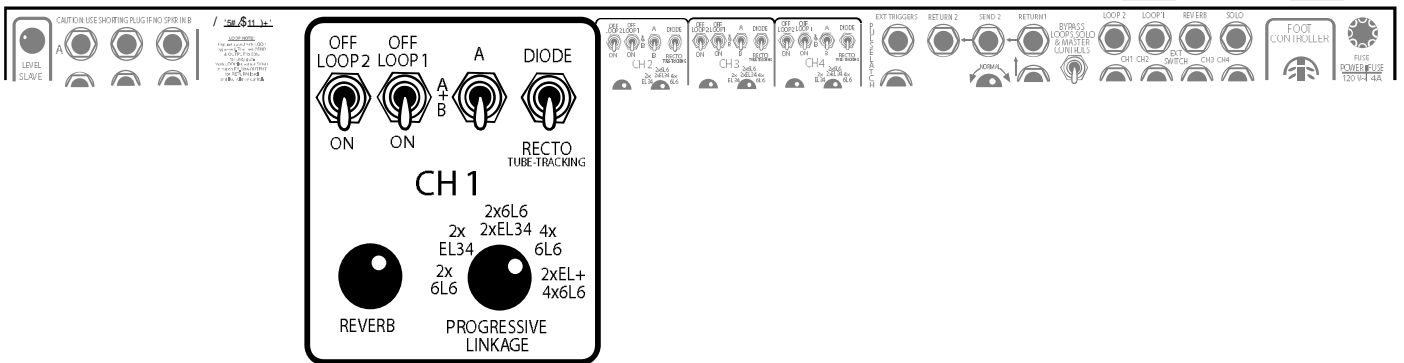
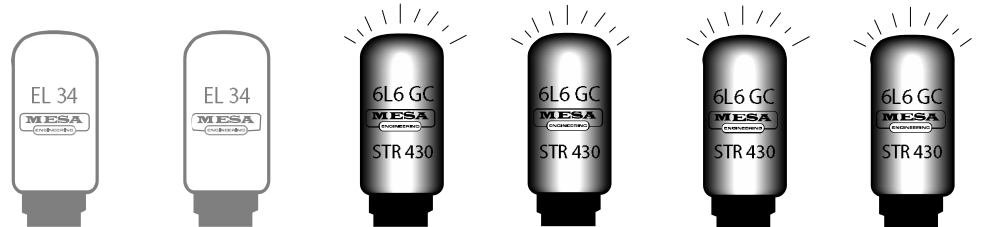
レクトのビンテージ・モードや、モダン・モードの驚くべきリキッド・ゲイン・サウンドを求めているなら、このパワー・セッティングは、まさにうってつけと言えるでしょう。レクティファイアの設定を思い出してみましょう…レクトの最もポピュラーな設定は、VINTAGE (ビンテージ) モードにTUBE TRACKING (チューブ・トラッキング) と、MODERN (モダン) モードに DIODE (ダイオード) でした



コンボ・バージョン 4 x 6L6
(図面:バックパネル一部)



ヘッド・バージョン 4 x 6L6
(図面:バックパネル一部)

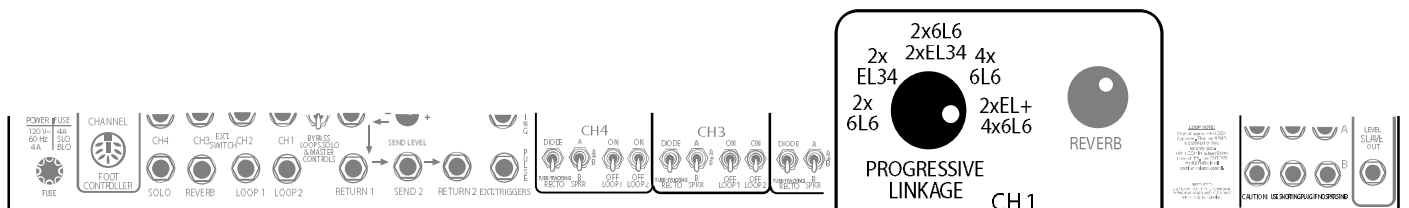


バックパネル:コントロールと機能(続き):

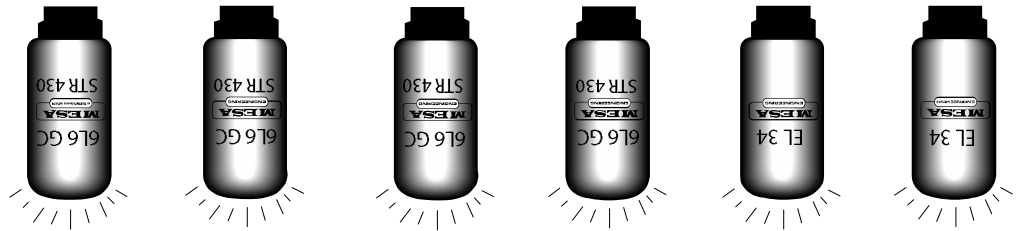
2xEL34 + 4x6L6

2xEL34 & 4x6L6 は、大きな会場にも対応出来る、驚異的なヘッドルームと、最もヘビーなサウンドを提供します。この設定は、6本全てのパワー管を使用して、135ワットの驚異のパワーを生み出しますので、小さな部屋で鳴らすのは、厳しいかもしれません。この組み合わせは、能力を使いきれない場合があります。小さな音量では、パワー管の能力を出し切れなからです。

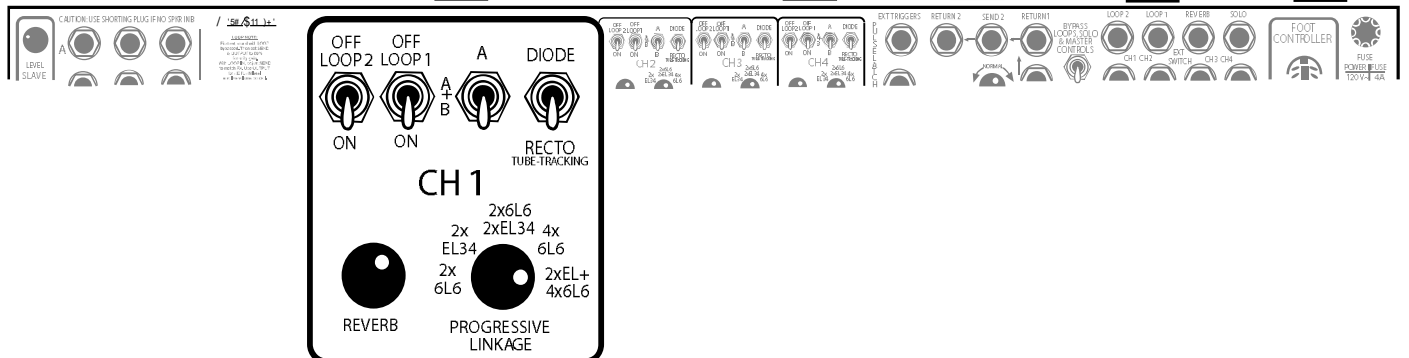
しかし反対に、屋外でのギグや、大きなステージでのパフォーマンスには、このパワー・セクションは、パンチのある明瞭なサウンドで、本領を發揮します。より傾向がはっきりしたバージョンの2+2の組み合わせでは、6L6のキャラクターに偏りがちになるので、ハイ・エンドの強調度合いが少なくなって、豊かな雰囲気になりますが、このモードでは、中音域のパンチが効いて、ロー・ミッドに太さがある、クリーン・リズムにも、ハイ・ゲイン・リード・サウンドにも適したサウンドになります。



コンボ・バージョン
2 x EL34 と 4 x 6L6
(図面:バックパネル一部)



ヘッド・バージョン
2 x EL34 と 4 x 6L6
(図面:バックパネル一部)



バックパネル:コントロールと機能(続き):

TUBE-TRACKING(真空管トラッキング)と整流器選択: この驚くべき機能は、弊社が特許を有する、デュアル・スイッチャブル・レクティフィアのコンセプトを、さらに発展させた技術であり、プログレッシブ・リンケージと相互に作用してパワー・セクションの真空管整流を適正に行います。従来のTUBE(真空管)とSILICON DIODE(シリコン・ダイオード)に加えて、RECTO TUBETRACKING(レクト真空管トラッキング)がチャンネル・ストリップで選択出来ます。RECTO TUBETRACKINGがチャンネル・ストリップで選択されていると、5つのパワー・セクションそれぞれで、必要に応じて整流管が選択されます。

これは、プリ・アンプのサウンドに対する、チャンネルのパワーを調整出来るという事を意味しています。チャンネル1で、4x 6L6にDIODE(ダイオード)を組み合わせると、ヘッドルームの大きなクリーン・サウンドにする一方、チャンネル2では、2x EL34にTUBE-TRACKING(真空管トラッキング)を組み合わせると、ルーズでエッジの効いたルーツ・リズム・サウンドにするという事が出来るわけです。リード・チャンネルにおいては、チャンネル3のVINTAGE(ビンテージ)モードで、2x 6L6 + 2x EL34にTUBE-TRACKINGを組み合わせると、くぐもった感じの単音ソロ・サウンドにする一方、チャンネル4のMODERN(モダン)モードでは、4x 6L6にDIODEを組み合わせると、クランチ・リズム・サウンドにするといった事を可能にします。様々な組み合わせで、数えきれない程のバリエーションを生み出す事が出来ます。選択されているチャンネルの整流器の選択状況は、フロント・パネルのLEDで確認する事が出来ます。ここで、2つの選択肢の動作について説明します;

DIODE(ダイオード整流): こちらは、半導体のダイオード整流を選択します。パンチの効いた、タイトなアタックの明るいサウンドになり、ヘッドルームは大きくなります。この整流器を選択すると、高いパワーを提供しますので、整流動作は最もタイトになります。この設定は、最大のヘッドルームが必要で、タイトな低音のレスポンスが欲しい時に最適です。具体的には、クリーン・リズム・サウンドや、極端にハイ・ゲインのクランチ・リズム・サウンドを必要とする時等です。

RECTO TUBE-TRACKING(レクト真空管トラッキング): これは、往年の真空管アンプに、尊敬の念を捧げるモードです。アンプの創成期には、整流器は真空管しかありませんでした。しかし、その後、たった5セントの凄く効率の良い半導体ダイオードが出現し、高出力のアンプが安価で製作される様になります。そして60年代に入ると、真空管アンプは、いつの日か過去の遺物と化してしまうのではないかと、思えた時期もありました。しかし、太くて、大音量で、効率が良いアンプに、何か足りないものがある事に、多くの人気が付く様になります。そうです、魂です。私達は、その魂を呼び覚ます技術で、デュアル・レクティフィア・シリーズで開発し、さらに磨きかけたのです。

ロード・キングでは、さらなる挑戦を試みています。5つのパワー・セクションは、そのフル・パワーを引き出す整流の量が、それぞれ異なるという事です。そしてさらに、事前にアサインされた、これら2つの回路は互いに関連しながらも、独立しているという事です!これこそが、まさにRECTIFIER TUBE-TRACKING(レクティフィア真空管トラッキング)なのです。この革新的な回路、レクティフィア真空管、あるいは、レクティフィア真空管のペアは、選択したパワー管に合う様に選択されます。ここに適合リストを示します;

TUBE-TRACKINGでのレクティフィア/パワー管の組み合わせ

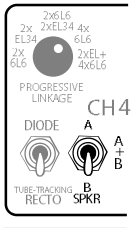
- 2x 6L6 ⇒ 1x 5U4G
- 2x EL34 ⇒ 1x 5U4G
- 2x 6L6 + 2x EL34 ⇒ 2x 5U4G
- 4x 6L6 ⇒ 2x 5U4G
- 2x EL34 + 4x 6L6 ⇒ シリコン・ダイオード

6本のパワー管全てを使用している場合、その強力な出力を制御出来るのは、シリコン・ダイオードしか無い事は、もうお分かりでしょう。真空管整流が使用出来ない理由には、次の2つが挙げられます。1つ目の理由としては、たとえ使えたとしても、選択することは殆ど無いだろうという事です。このような極端なパワー・セクションの選択をするのは、巨大な会場でのライブや、極端にヘビー・スタイルの音楽だけです。こういったケースでは、真空管整流だと、レスポンスが遅くてルーズになってしまいますし、パワー管のポテンシャルを、全て引き出す事が出来ません。私達は、以前トリプル・レクティフィアで、既にそれを経験していましたし、大きな会場で、フル・ボリュームのポテンシャルを引き出す為には、整流器としてシリコン・ダイオードを使用するのがベストである事の確証を得ています。2つ目の理由としては、ロード・キングは、6本のパワー管まで含めた、チャンネルのプログラムを可能にする回路を収める事を、コンセプトとしていて、それを実現する為には、大きなパワーを制御出来る5U4Gを組み込むスペースが残されていなかったという事です。その選択肢も時間をかけて吟味した結果、6本のパワー管を全て使用するハイ・パワーに対応出来て、しかも、タイトなアタックを保持する為には、やはり、シリコン・ダイオードが、最適な選択であるという結論に至りました。結果的に2つの選択肢は、それぞれ独特なサウンド・キャラクターを持つ事になったのです。

バックパネル:コントロールと機能(続き):

SPEAKER A / B & A + B 選択スイッチ:

前述した様に、SPEAKER OUTPUT (スピーカー・アウトプット) セクションは、小さなトグル・スイッチで、どちらか 1 台、あるいは両方のスピーカー出力端子に、出力するかを選択します。初期設定は“A”になっていますので、“B”端子にスピーカー・エンクロージャーを接続しない場合は、出力トランスを保護する為に、“B”端子にダミーのショート・プラグを接続しておいて下さい。

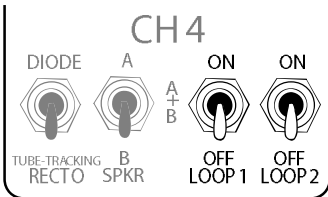


スピーカー・アウトプット・セクションの保証についてご確認ください。アンプに損傷を与える事無く、ポテンシャルを引き出す為にも、是非ご一読をお願いします。

ノート: 8 オームのキャビネット 2 台を、A、B 2 つの 4 オーム出力端子に接続する場合は、SPKR A + B を選択しないで下さい。2 オームの負荷になってしまうので、パワー管を過度に酷使する事になり、寿命が短くなってしまいます。

LOOP 1 & LOOP 2 選択スイッチ:

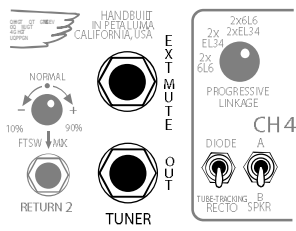
各チャンネルの、2 つの小さなトグル・スイッチで、2 系統の直列エフェクト・ループをアサインします。LOOPS (ループ) をオンにすると、フロント・パネルのFX LOOPS LED が点灯しますので、ループの状況を確認する事が出来ます。ループに関する詳細は、EFFECTS LOOPS (エフェクト・ループ) セクションをご覧ください。



ノート: エフェクト・ループを使用する為には、リア・パネルのEFFECTS LOOP (エフェクト・ループ) セクションのスイッチが、オンになっていなければなりません

TUNER (チューナー):

この出力は、チューナーを接続する為の端子です。ここには、ギターのパickアップと、ロード・キングの全真空管の、入力ステージの間の信号が出力されます。TUNER OUT (チューナー出力端子) のレベルは、入力ステージで適正にされます。



キング・コントローラー・フット・スイッチのTUNER MUTE (チューナー・ミュート) スイッチを押す事で、“サイレント・チューニング”が行えます。この機能は、スピーカーから音を出さずに、チューニングするものです。

EXT MUTE (外部ミュート): ロード・キング・コントローラーを、外部マスター・スイッチング・システムとして使用出来ない場合に、このジャックで、チューナー・ミュート機能をコントロールします。この場合、全てのチャンネル、リバーブ、ソロ、ループを、リア・パネルのEXT SWITCHES

と表示されている、計 8 つのジャック (キング・コントローラーのDINジャックとチャンネル選択ロータリーの隣) に、マスター・スイッチャーを接続します。全てのサウンドと機能は、このマスター・スイッチャー (通常はプログラム可能) によって切り替えられます。チューナー・ミュート機能も同様に動作します。ただし、ジャックが、他のEXT SWITCHジャックと離れています (チャンネル・ストリップとループの間)。EXT MUTE (外部ミュート) を含む全てのジャックは、グランド・タイプ (チップ・トゥー・グランド) のスイッチを使用して下さい。

バックパネル:コントロールと機能(続き):

EFFECT LOOPS(エフェクト・ループ): 前述した様に、エフェクト・ループは、直列で2系統あり、ここにプロセッサーを接続する事が出来ます。ループ・セクションは、ハード・バイパスで、アンプの信号経路から、切り離す事が出来ます。

BYPASS(バイパス)が選択されると、ループも、フロント・パネルOUTPUT(アウトプット)とSOLO(ソロ)も無効になり、2つの12AX7が回路上からバイパスされます。このとき、各チャンネルのMASTER(マスター)コントロールが、メインのボリュームコントローラーになります。フロント・パネルのLEDは、チャンネルのコントローラーの間にあります。ACTIVE/BYPASS(アクティブ/バイパス)スイッチの右にプロセッサーをインサートする、パッチ・ポイントがあります。ロード・キングは、エフェクト・ループを2系統 装備していますので、SEND(送)とRETURN(リターン)の端子が2つずつあります。そしてSEND LEVEL(送・レベル)コントロールで、プロセッサーに送る、チャンネル・マスターの信号のレベルを調整します。LOOP SYSTEM(ループ・システム)スイッチがACTIVE(アクティブ)になっていると、フット・スイッチでループのオン/オフを切り替える事が出来ます。どちらか1方、あるいは両方のEFFECT

LOOPS(エフェクト・ループ)を使用する場合は、次の手順で行って下さい:

エフェクトのパッチ:

この手順で外部プロセッサーを接続すると、良い結果が得られます;

LOOP 1 & 2

- 1.) SEND(送)ジャックと、プロセッサーの入力端子を接続する。
- 2.) RETURN(リターン)ジャックと、プロセッサーの出力端子を接続する。
- 3.) 演奏をしながら、チャンネルのプリ・アンプのレベルをチャンネル・マスターで調整する(これはループの送・レベルに影響します)。
- 4.) リア・パネルの、2つのLOOP SYSTEM(ループ・システム)スイッチを、ACTIVE(アクティブ)にする。
- 5.) プロセッサーの入力レベルと、SEND LEVEL(送・レベル)コントロールで、プロセッサーへの送・レベルを調整する。この時“ユニティー・ゲイン”が理想的です(ループ・ステータス・スイッチをオン/オフして、レベルに差がない様にする)。
- 6.) LOOP SYSTEM(ループ・システム)スイッチをACTIVE(アクティブ)にして、演奏を開始する。

ノート:歪んだサウンドやレベル差の大きな信号をエフェクト・プロセッサーに入力した際に、エフェクト・プロセッサーの入力インジケータが大きく振れても、クリップさえ起きていなければ、問題ありません。それよりも、チャンネル毎のバランスや、サウンド・キャラクターが良くなる様に設定する事が重要です。各チャンネルのMASTER(マスター)を適正なボリューム、そしてバランスになる様に設定する事を心がけて下さい。クリップが起こったら、チャンネル・マスターを少し絞って、レベルを調整して下さい。

ノート:エフェクト・ループは、ユニティー・ゲインの信号を入力すると、良いサウンドになる様に設計されています。プロセッサーの入出力レベルが、このレベルを大きく上回ると、ハウリングが発生するリスクが高まります。これは、SEND(送)RETURN(リターン)ジャックに接続した、プロセッサーの入出力で、極端にゲインを上げた時に発生します。ロード・キングの回路は、音質を重視しているので入力感度が高くなっています。ですので、外部プロセッサーを使用する場合は、品質の高い製品を使用して、適正なレベルの信号を入出力する様に、心がけて下さい。

これは、ハイ・パフォーマンス・アンプ全般に言える事ですが、アウトボードの機器を接続する場合は、必ず良質な製品を使用して下さい。どうしても、品質の劣る製品を使用しなければならない場合は、サウンドの品質が落ちる事を覚悟して下さい。そして、プロセッサーでゲインを上げると、ハウリングを起こす可能性が高まりますので、その点にも注意して下さい。

バックパネル:コントロールと機能(続き):

エフェクトのパッチ(続き):

ノート: LOOP BYPASS (ループ・バイパス) スイッチがバイパスになっていると、2 x 12AX7、LOOPS 1 & 2、そしてアウトプットとソロ・コントローラーも無効になります。

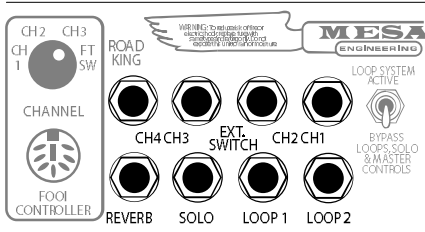
ノート: ロード・キングのEFFECTS RETURN (エフェクト・リターン) ジャックを、パワー・アンプの入力端子として使用する場合は、チャンネル 1 & 2 では、入力感度は、“普通”ですが、チャンネル 3 & 4 のMODERN (モダン) モードでは、入力感度が敏感になります。

これは、パワー・セクションの入力感度が 10 倍位になっています。これにより出力レベルの設定が微妙になってきますので、注意しないと、いきなり大きな音が出る事になります!

ノート: ロード・キングをパワー・アンプとして使用する場合は、このマニュアルの最初の方の、コントロール・セクションをご覧ください。

EXTERNAL SWITCHING (外部スイッチ):

この 8 つのジャックに、外部マスター・スイッチング機器を接続する事で、4 つのチャンネル、2 つのループ、リバーブ、ソロ機能をコントロールする事が出来ます。外部マスター・スイッチング機器が MIDI に対応していれば、アンプの設定と、エフェクト・プロセッサの設定をプログラムしておいて、MIDI で切り替える事も出来ます。このポートは、シンプルなチップ・トゥー・グラウンドのロジックで動作しますので、殆どのマスター・スイッチング機器を使用する事が出来ます。



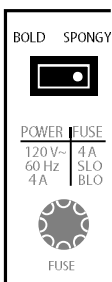
EXTERNAL SWITCHING (外部スイッチ) ジャックは、ロード・キングのフット・コントローラーに優先します。このポートでトリガーをオンにした機能は、このポートでオフにしない限りオフにはなりません。

POWER (電源): SPONGY (スポンジー) / BOLD (ボールド):

ロード・キングでは、内蔵のVariac (可変電圧) 機能により、**SPONGY (スポンジー)** / **BOLD (ボールド)** の 2 種類の電源電圧を切り替える事が出来ます。

SPONGY (スポンジー):

これは、内部で電源電圧を下げる事により、RECTIFIER TUBE-TRACKING (レクティファイア真空管トラッキング) と相まって、アンプのサウンドが、柔らかくルーズな感覚になります。クリーン・サウンドは、中域が抜けて、ハイ・エンドの倍音成分が強調されたサウンドになります。オーバードライブ・サウンドは、広がりが出て、ルーズな感覚で少し明るくなります。2 x EL34 のパワー・セクションで、RECTO TUBETRACKING (レクト真空管トラッキング) にして、**SPONGY (スポンジー)** と組み合わせると、独特なクリップ・サウンドになります。もう 1 つ良い点は、**SPONGY (スポンジー)** にすると、真空管に掛かる電圧が低くなるので、真空管の寿命が長くなるのと同時に信頼性も上がります。



この理由だけで、**SPONGY (スポンジー)** しか使わないというような事はしないで下さい。われわれは、**BOLD (ボールド)** で使用しても十分な信頼性が得られる様に設計しています。我々の長年に渡る、アンプ製造の経験、そして、世界中のユーザーの声からしても、真空管の信頼性は、確かなものです。殆どのユーザーは、サウンドが劣化して真空管の交換が必要になるまで、お使いいただいています。

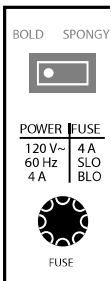
BOLD (ボールド):

これは、電源電圧を内部で下げる事無く、通常の動作で使用するモードです。この設定は、2 つのクリーン・チャンネルで、最も大きなヘッドルームを得られます。また、2 つのハイ・ゲイン・チャンネルでは、明瞭度があり、低音域がタイトなサウンドが得られます。この設定は、ライブに最も向いており、最も汎用性の高い、強力なモードです。

バックパネル:コントロールと機能(続き):

FUSE(ヒューズ):

これはA.C.(交流)のメイン・ヒューズであり、外部の突発的な過電圧等からパワー管を保護する役割を果たします。ヒューズが破損したらSlo-Bloタイプの同じ規格のものと交換して下さい。日本国内の100ボルト仕様には、4アンペアのSlo-Bloヒューズを使用して下さい。ヒューズの破損が原因と見られるパワー管の破損が起きた場合は、次の手順を踏んで下さい。Hi Volts(ハイ・ボルト)スイッチのセクションでも触れましたが、Hi Volts(ハイ・ボルト)をオフからオンに切り替えた時のパワー管の状態を見て下さい。この時パワー管が正常でないと確認出来たら、即座にHi Volts(ハイ・ボルト)をオフにして、パワー管を交換し、必要に応じてヒューズも交換して下さい。



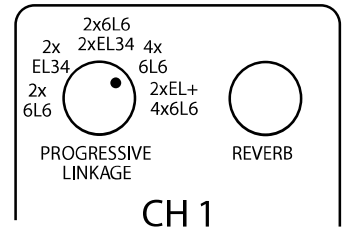
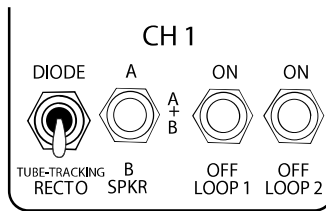
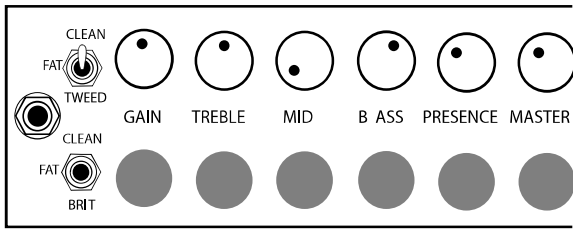
パワー管に特に異常が見られなければ、Hi Volts(ハイ・ボルト)をオフからオンに切り替えて下さい。この場合は、パワー管がたまたま損傷し、それが原因でヒューズが飛んだと考えられます。念のために隣の真空管、あるいは“ショットガン”トラブル・シューティングで全ての真空管を交換して、損傷していない真空管を、予備として保管するのも一つの方法です。予備の真空管は、同じく予備のヒューズと一緒に保管しておくといいでしょう。

これで、リア・パネルの説明が一通り終了しました。あとは、実際に音を出して、ご自身のオリジナルサウンドを作る事に集中して下さい。このあとに、サンプル設定を用意してありますので、それを参考にするのも良いでしょう。

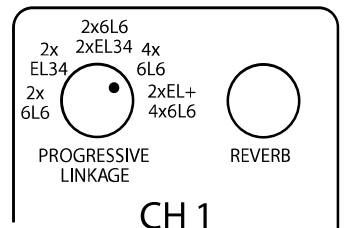
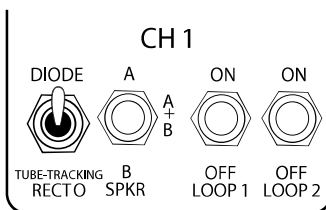
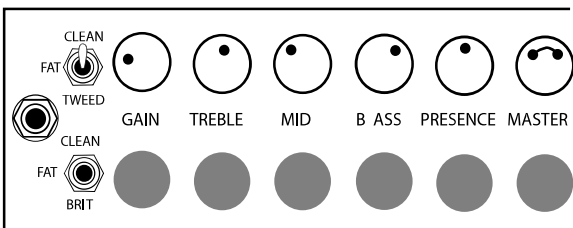
私達はこれから、生涯にわたって、未長いおつきあいを願っています。この新たなアンプが、あなたの音楽制作に、少しでもお役に立てればと思います。

サンプル・セッティング

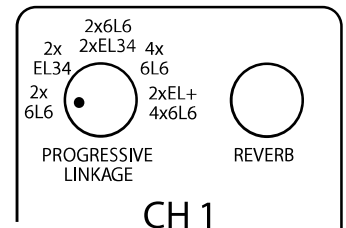
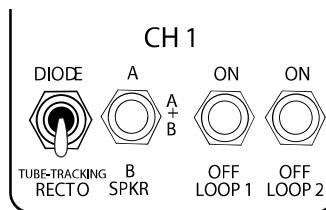
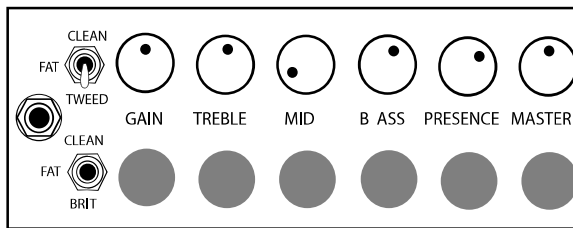
チャンネル1 セッティング#1 Verse Clean



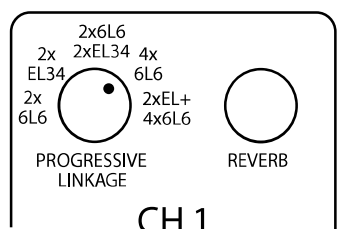
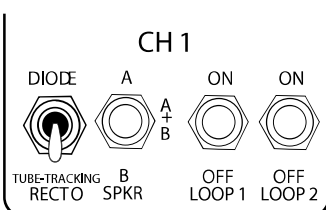
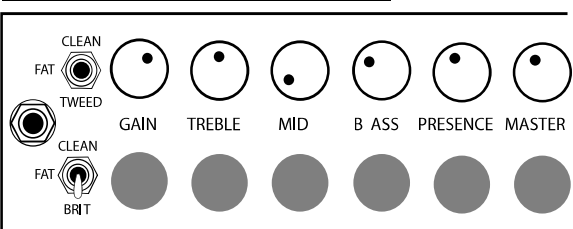
チャンネル1 セッティング#2 Spank



チャンネル1 セッティング#3 Elastic Tweed

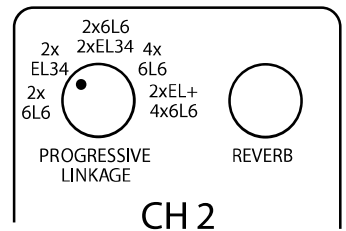
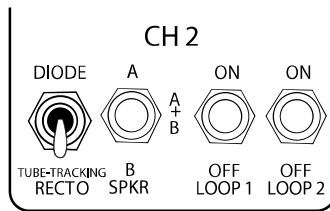
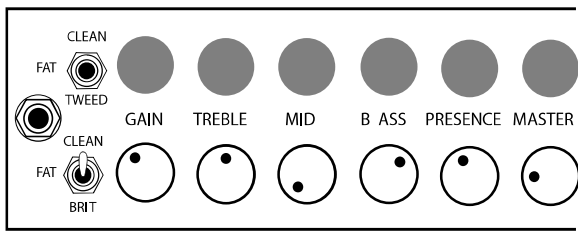


チャンネル1 セッティング#4 Fat Solo

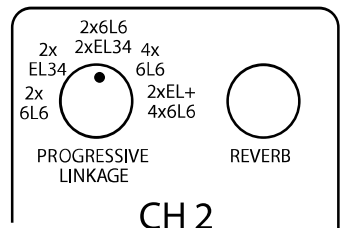
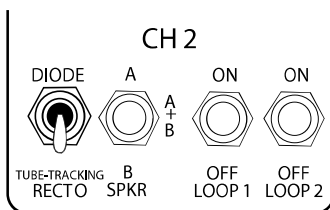
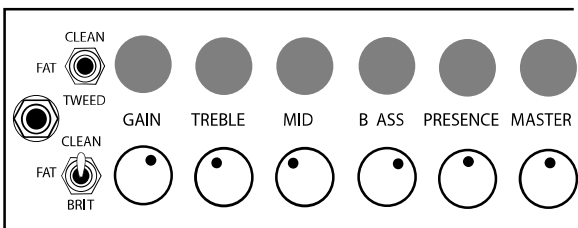


サンプル・セッティング

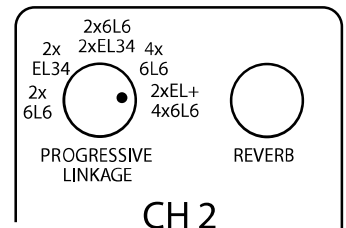
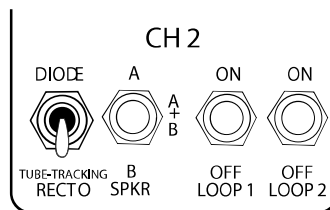
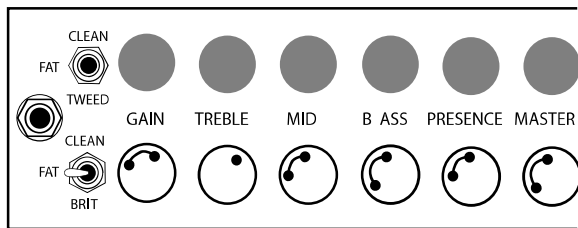
チャンネル2 セッティング#1 Skinny Skank



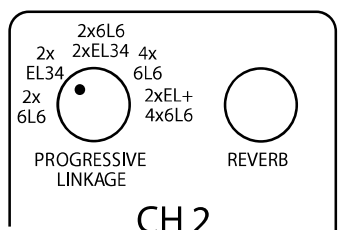
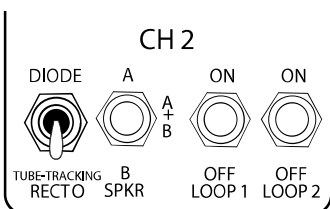
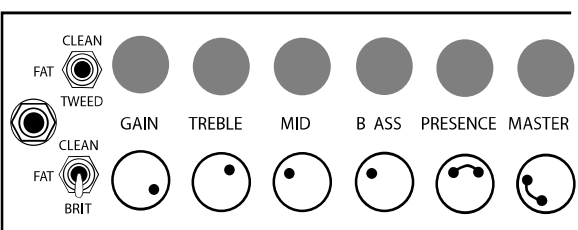
チャンネル2 セッティング#2 Rhythm Mix



チャンネル2 セッティング#3 Power Rhythm

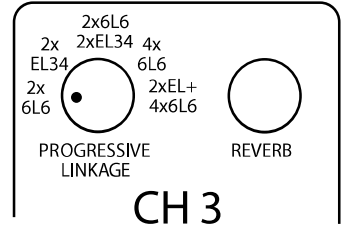
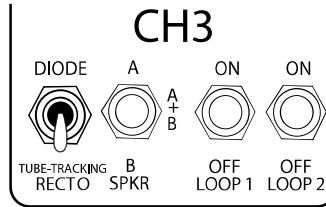
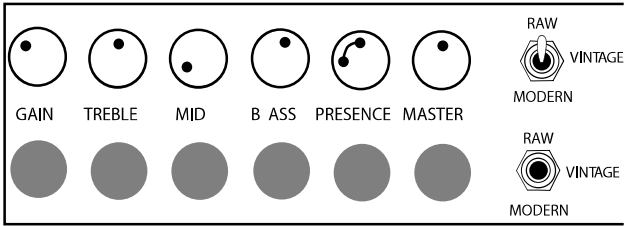


チャンネル2 セッティング#4 Brit Grind

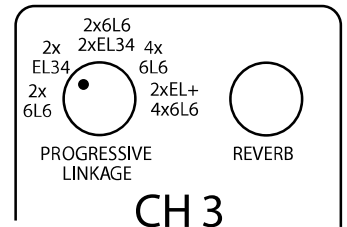
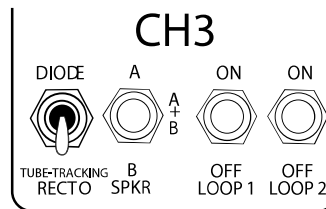
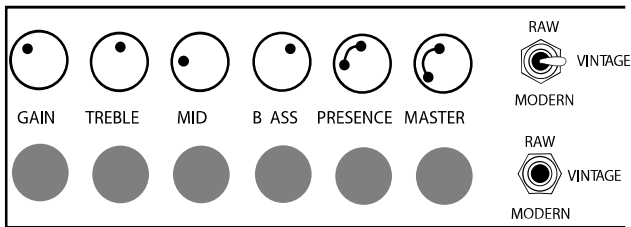


サンプル・セッティング

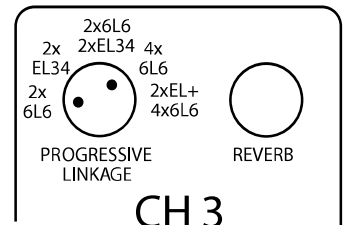
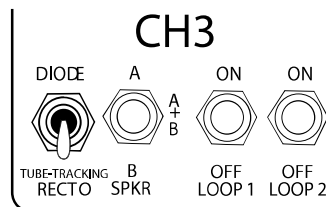
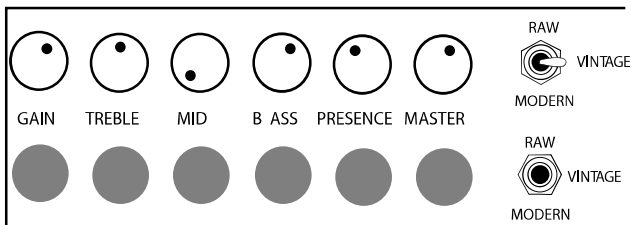
チャンネル3 セッティング#1 Purring Blues



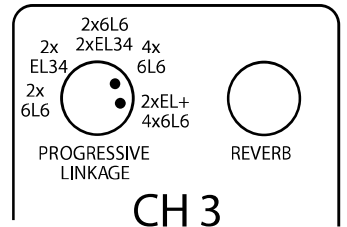
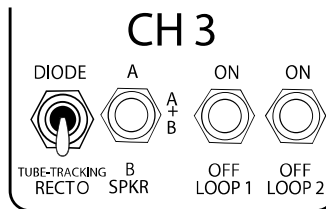
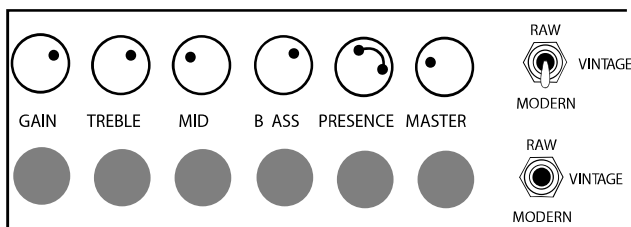
チャンネル3 セッティング#2 Smooth Grind



チャンネル3 セッティング#3 Liquid Solo (Recto Vintage)

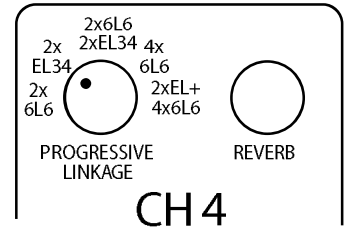
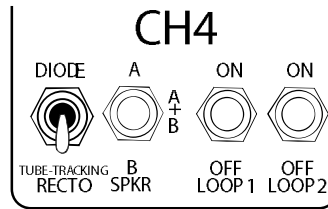
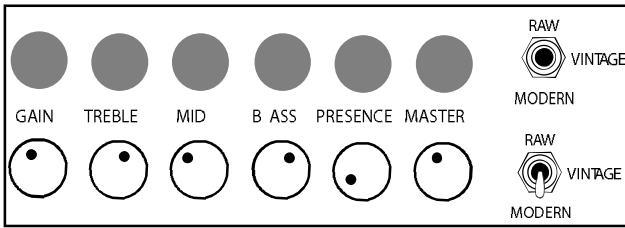


チャンネル3 セッティング#4 Giant Fur

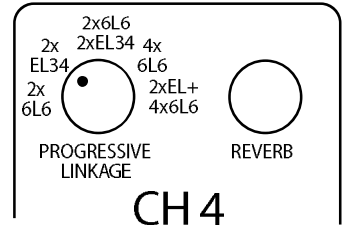
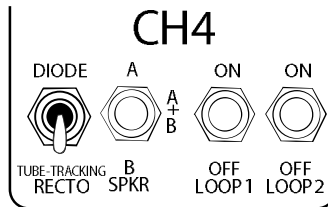
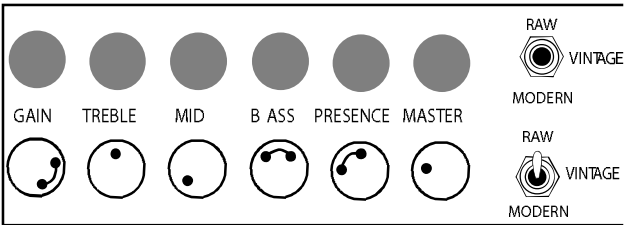


サンプル・セッティング

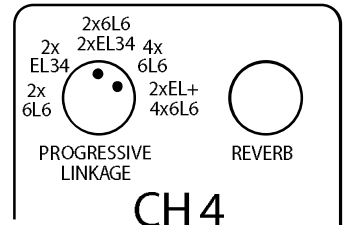
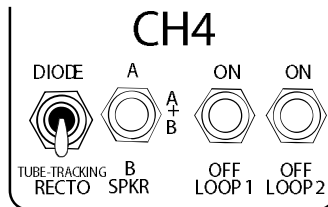
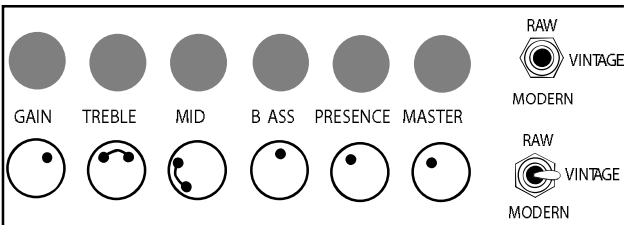
チャンネル4 セッティング#1 Atlantic Blues



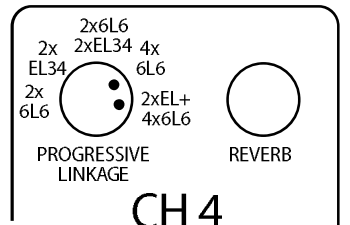
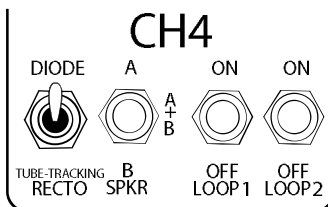
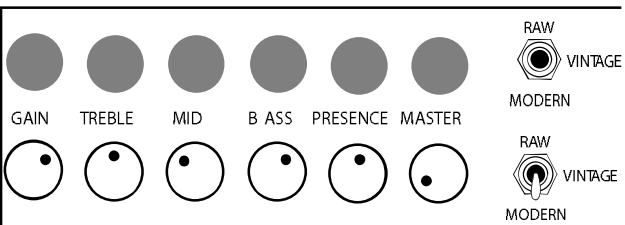
チャンネル4 セッティング#2 Stripped Grind



チャンネル4 セッティング#3 Hot Liquid Solo



チャンネル4 セッティング#4 Recto Modern



スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド:

インピーダンス:

スピーカー接続において最も基本的で重要なのは、位相を正相にする事です。これにより素晴らしい音を出力する事が可能になります。これはそんなに難しい事ではありません。負荷についていくつかの事と、最適な負荷でスピーカーを接続する事を理解すれば良いのです。

MESA/Boogie アンプは、4 オームと 8 オームを扱う事が出来ます。真空管アンプは、4 オーム未満でドライブする事はしないで下さい。;これを行うと、出力トランスを損傷する可能性があります。2 オームを扱う事の出来る数少ないアンプ (例えば MESA (メサ) の Bass 400+) であれば大丈夫です。反対に高い抵抗値 (例えば 16 オーム等) の場合はアンプを傷める事はありません。

ミス・マッチング:

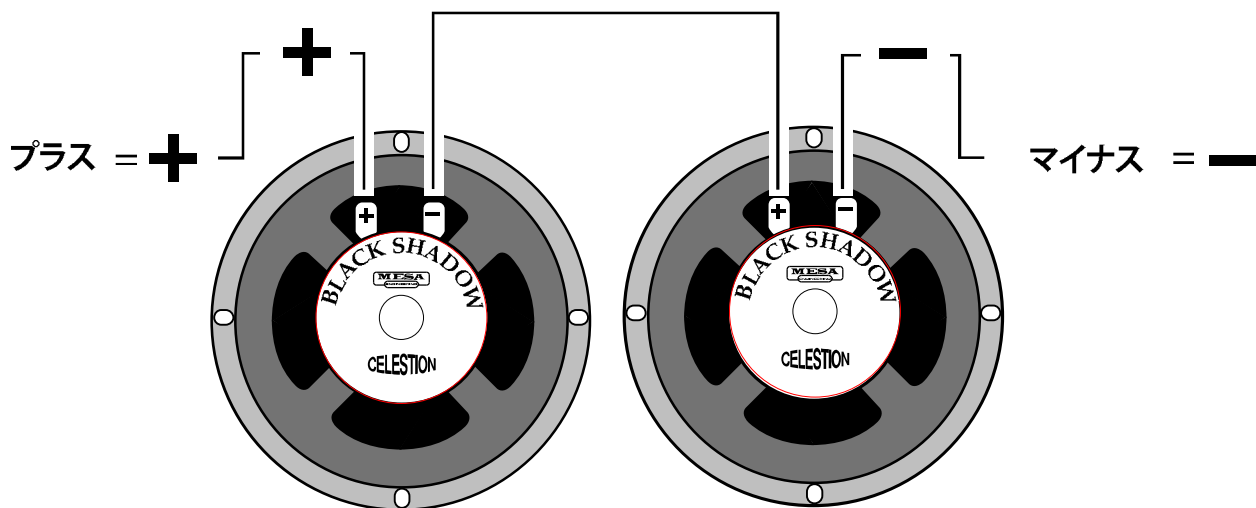
高い抵抗値 (例えば 8 オーム出力を 16 オームのキャビネットに接続) でドライブすると、少しフィーリングが異なり、レスポンスが際立った感じになります。少しのミス・マッチであれば、トーンが若干暗く、出力とアタックが少し弱く、レスポンスが少し速くなる程度です。スピーカー・キャビネットが複数になると、ミスマッチは選択肢の 1 つになるほどです。

キャビネット・インピーダンスの算出方法:

お持ちのスピーカーが 1 台の場合は、そのスピーカーのインピーダンスとアンプのインピーダンスを合わせて下さい。複数のスピーカーをお持ちの場合は、アンプにかかる負荷を計算しなければなりません。複数のスピーカーの接続方法は次の 3 種類になります。:

シリーズ(直列):

スピーカーを直列に接続した場合、それぞれのスピーカーのインピーダンスを単純に加算します。例えば、8 オームのスピーカーを 2 台直列に接続した場合は、16 オームになります。

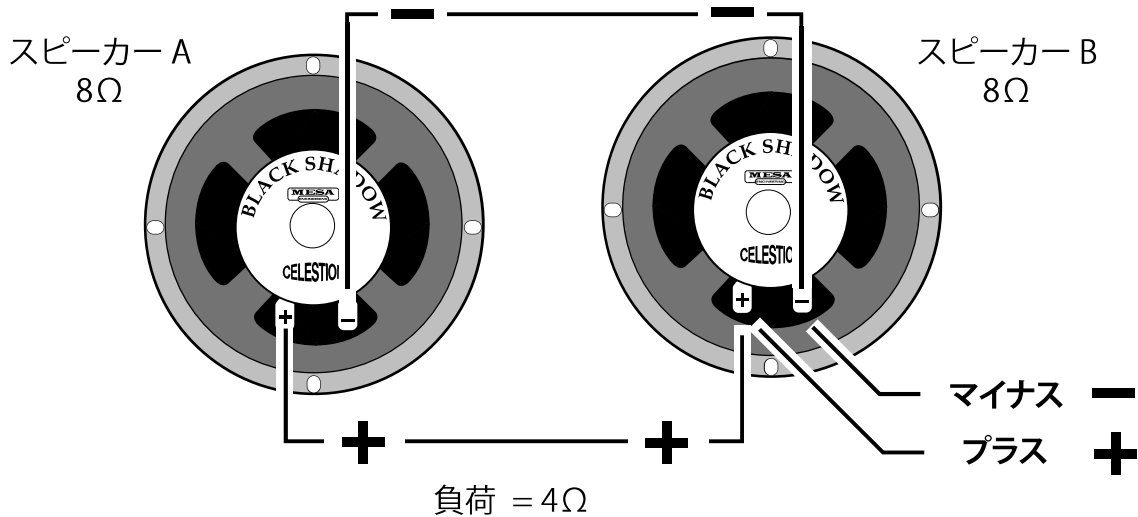


シリーズ(直列): スピーカー A のマイナス端子と
スピーカー B のプラス端子を接続

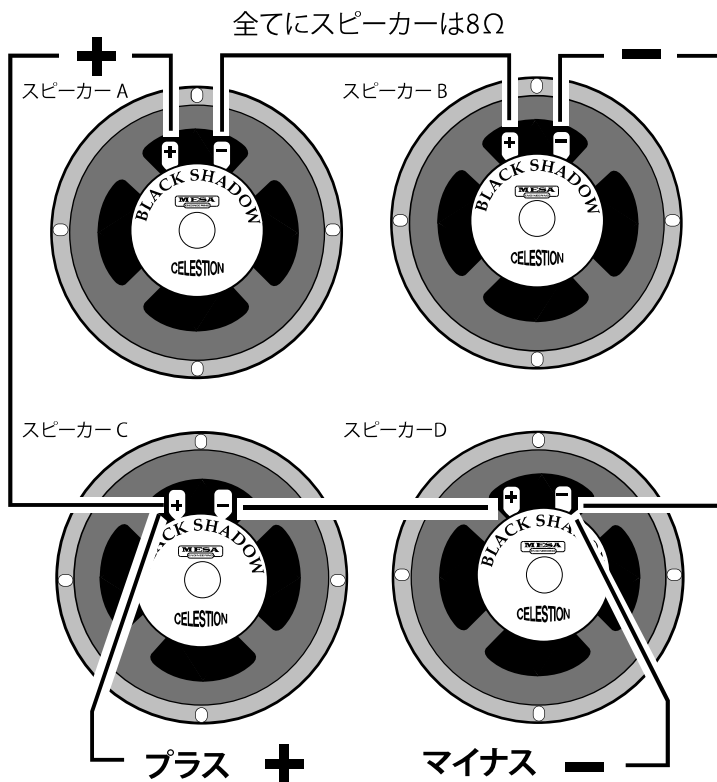
スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド(続き):

パラレル(並列):

スピーカーを並列に接続した場合、スピーカーの抵抗値は下がります。2台の8オーム・スピーカーを並列に接続した場合、負荷は4オームになります。接続するスピーカーが全て同じ抵抗値であれば計算は簡単ですが、異なる抵抗値のスピーカー(例えば、8オームと4オーム、16オームと8オーム等)を並列に接続する場合は、少しややこしくなります。計算式は、それぞれの抵抗値をかけ算した数値を、それぞれの抵抗値を足し算した数値で割ります。例えば8オームと4オームであれば、 $8 \times 4 \div (8 + 4) = 2.6666$ オームになります。パラレル(並列):スピーカーAのプラス端子とスピーカーBのプラス端子、スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのマイナス端子をそれぞれ接続。



シリーズ(直列)とパラレル(並列)の組み合わせ:



これは、2セットの直列接続したスピーカーを並列に接続する組み合わせです。ここで重要なのは、全てのスピーカーの合成抵抗値が低くなり過ぎてアンプに負担を掛けない様にする事です。

スピーカーAのプラス端子とスピーカーCのプラス端子を接続。

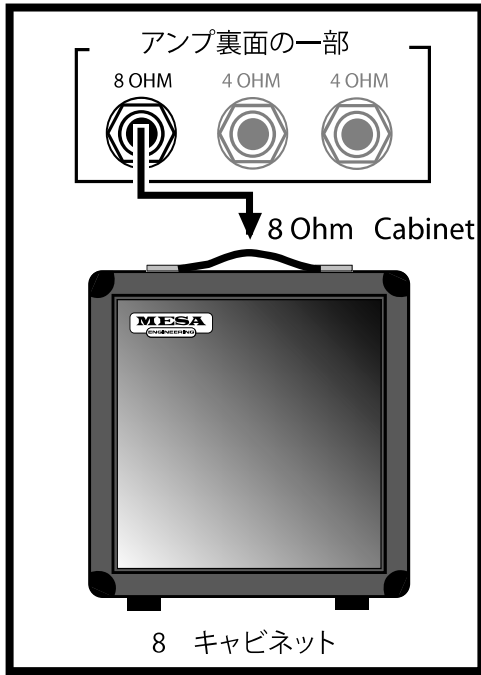
スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続。次にスピーカーCのマイナス端子とスピーカーDのプラス端子を接続。

そして最後にスピーカーBのマイナス端子とスピーカーDのマイナス端子を接続します。

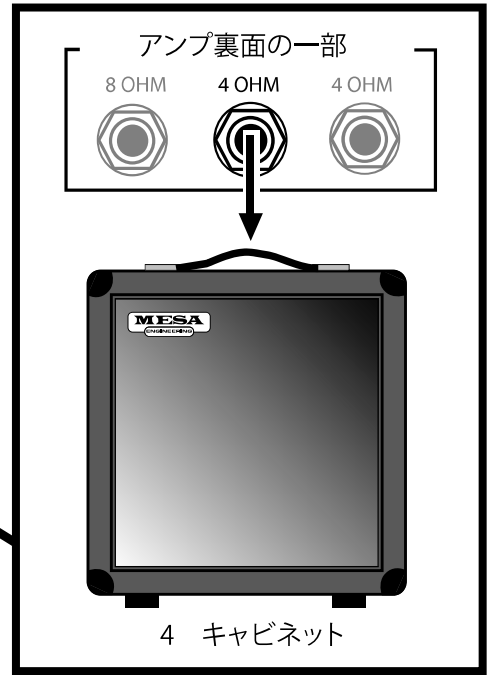
4台の8オーム・スピーカーをシリーズ・パラレル接続した時の合成抵抗値は、8オームになります。

接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

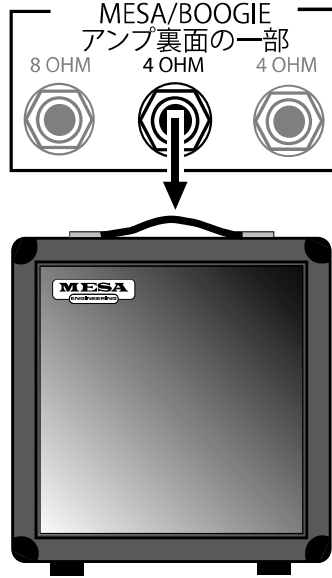
①



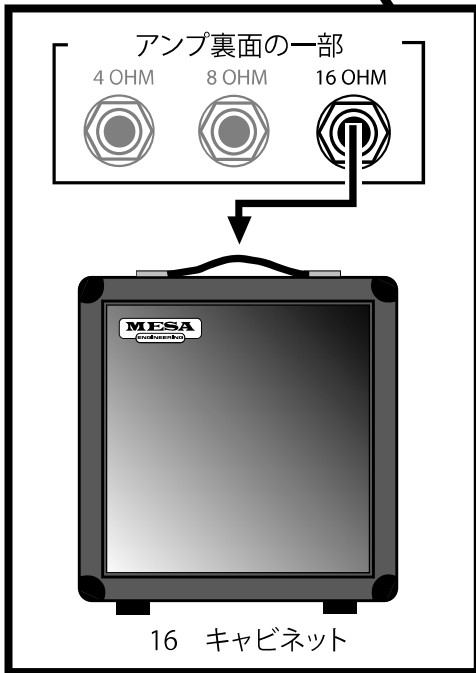
②



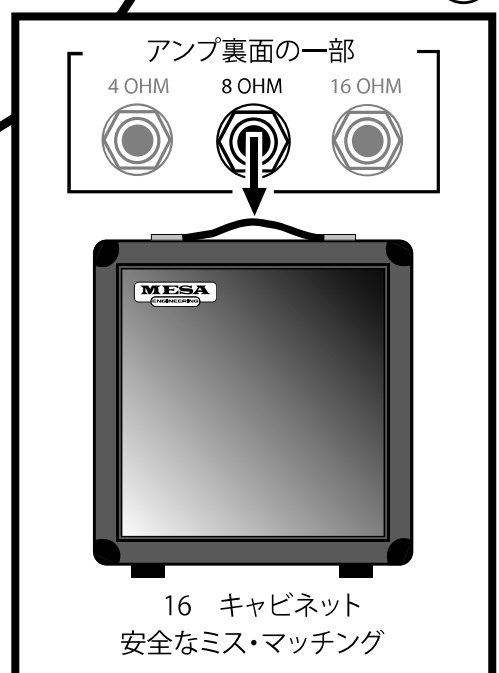
③



④



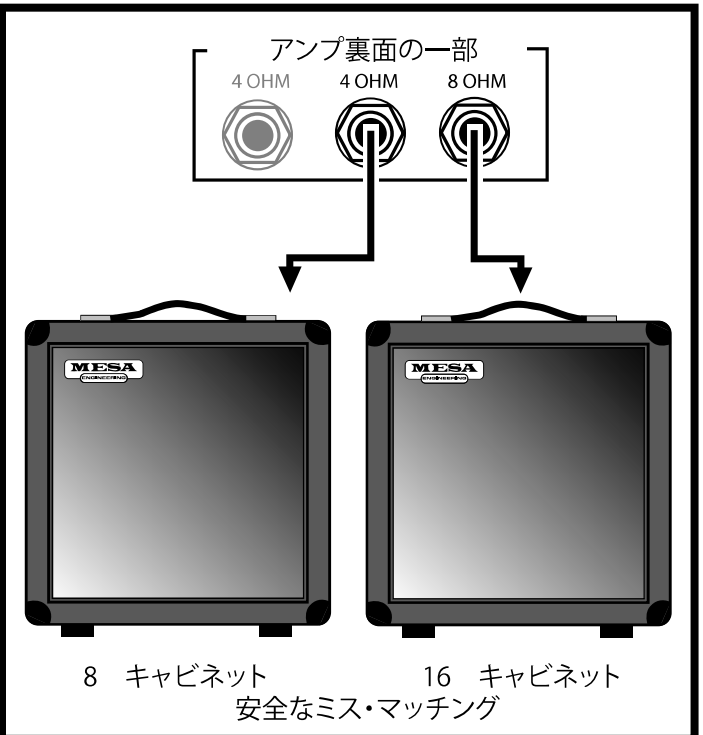
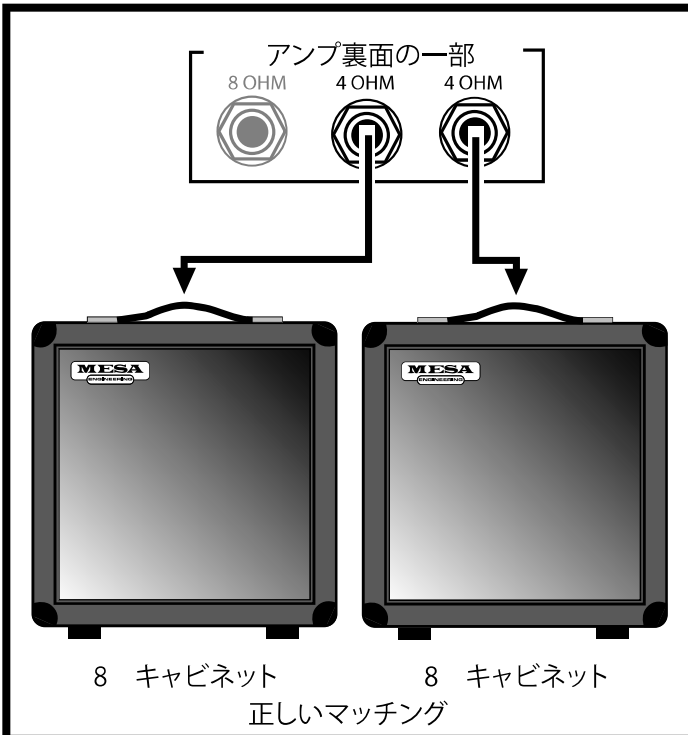
⑤



接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

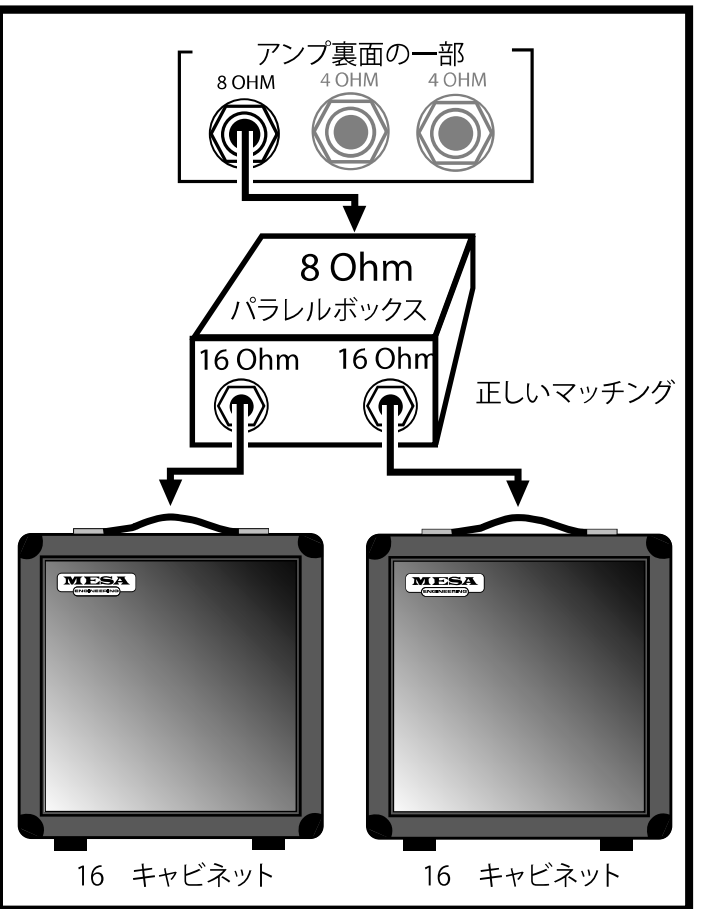
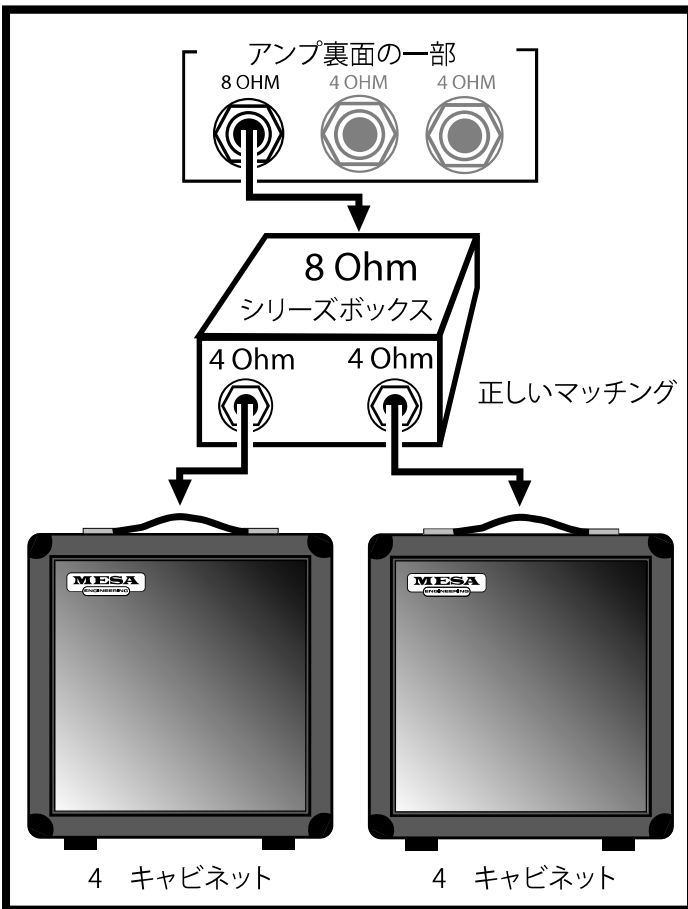
6

7



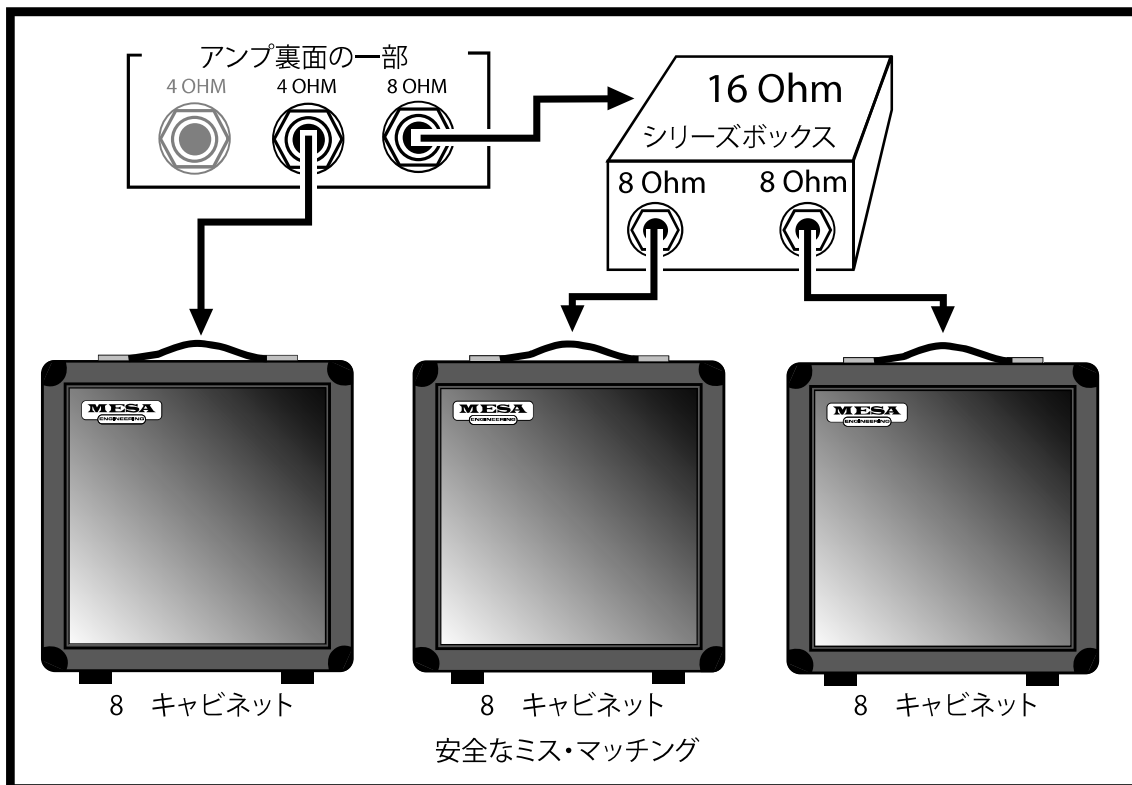
8

9

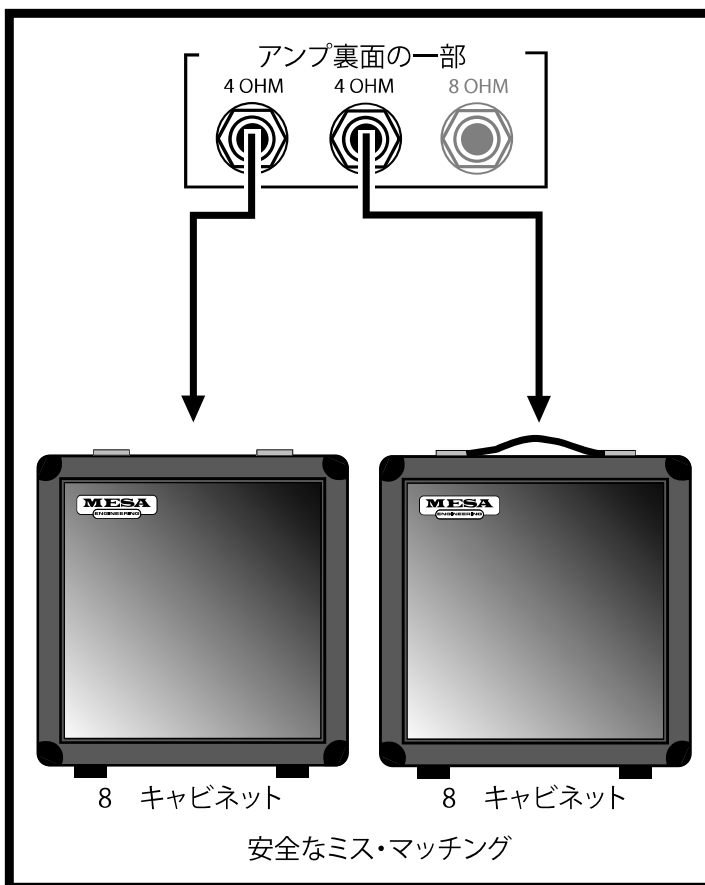


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

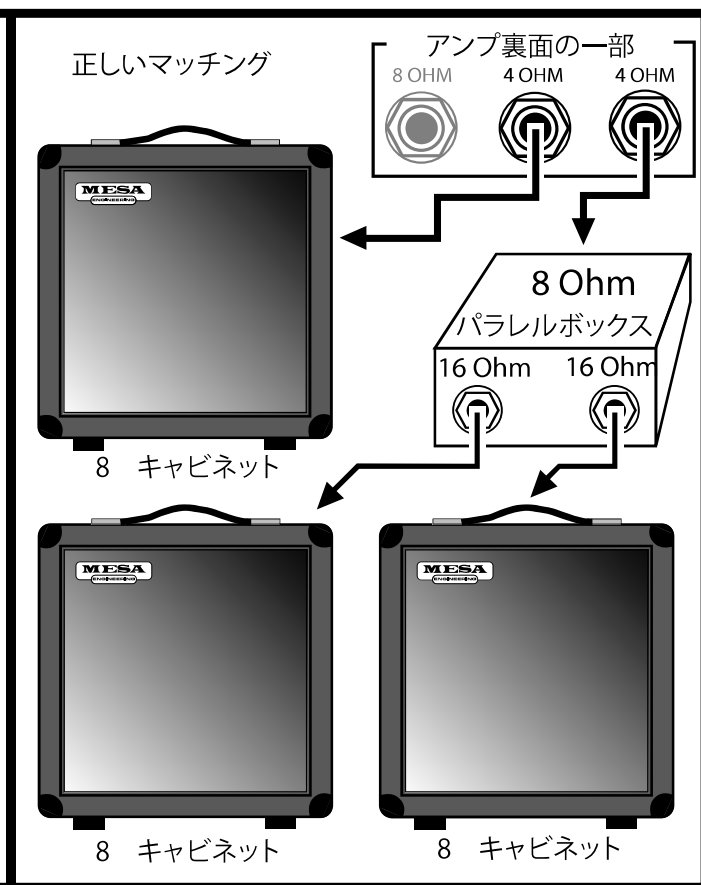
⑩



⑪

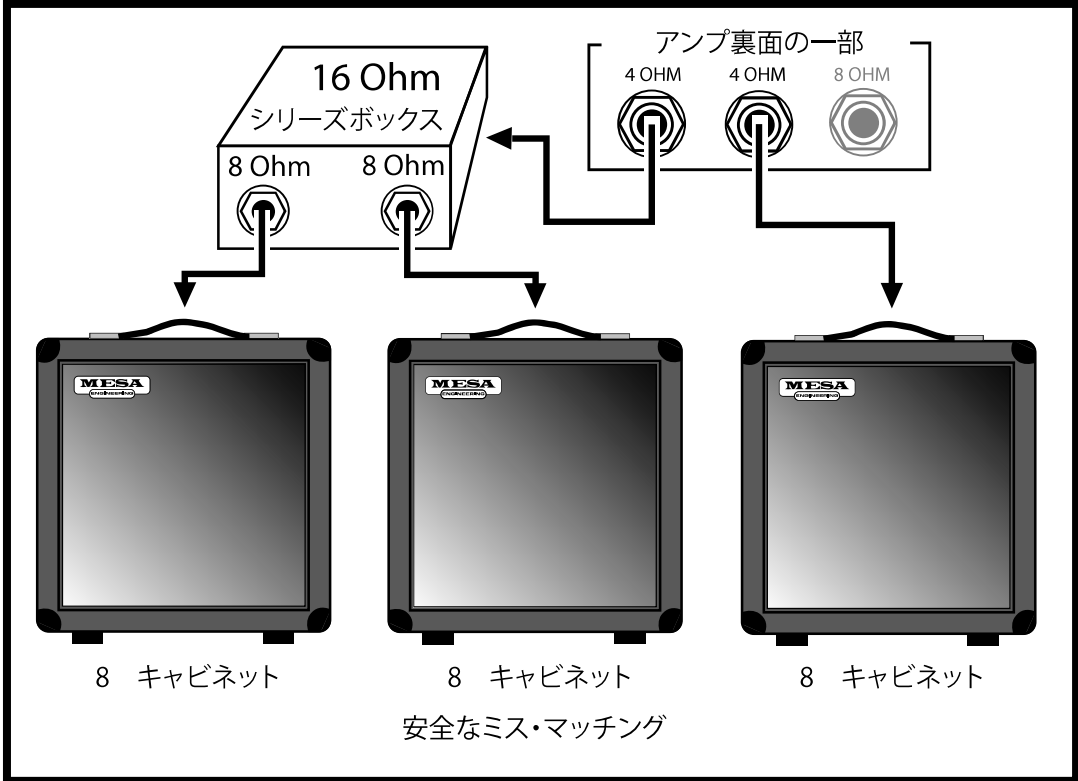


⑫

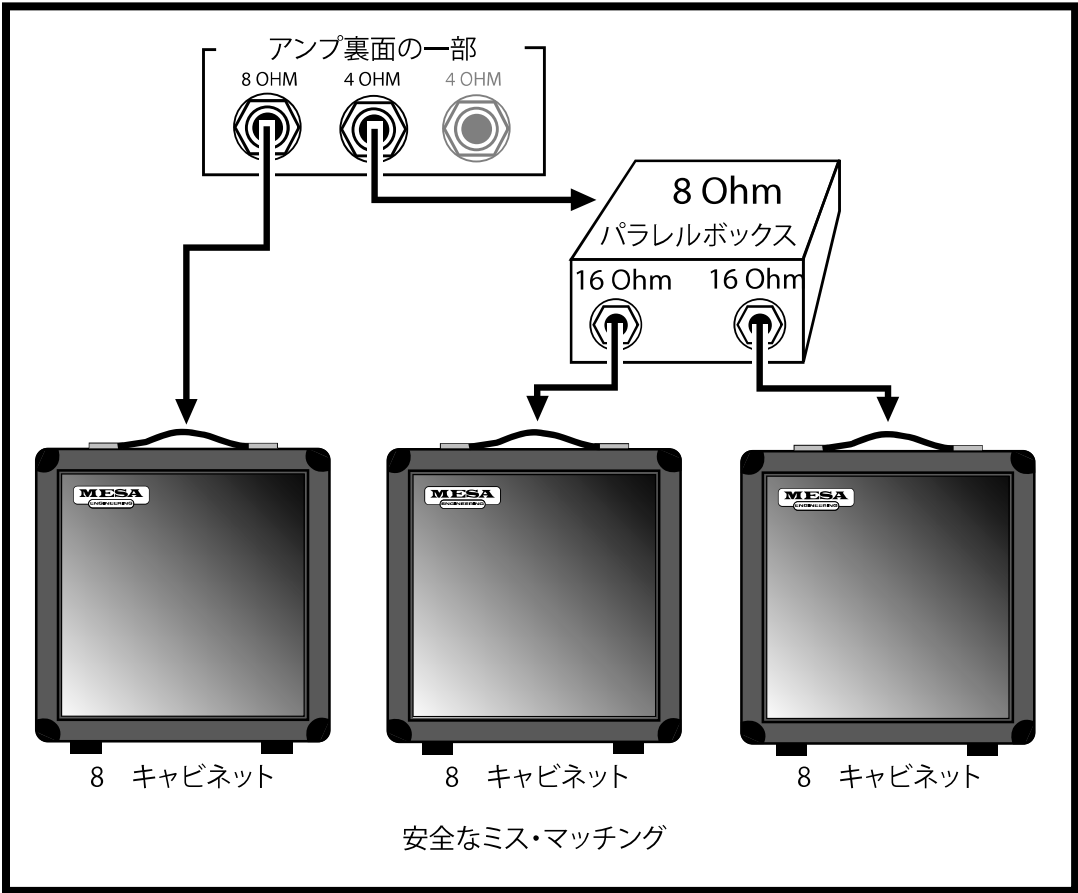


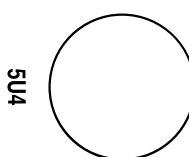
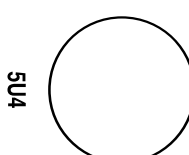
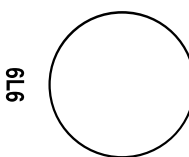
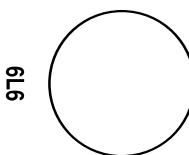
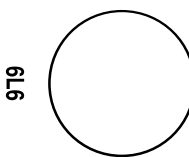
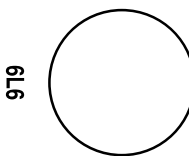
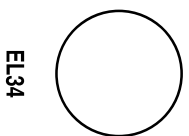
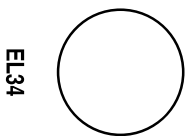
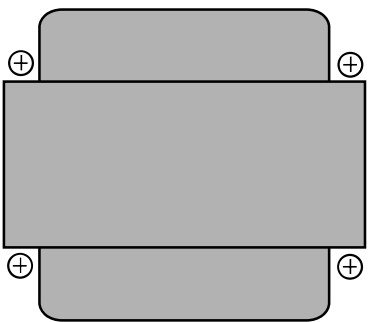
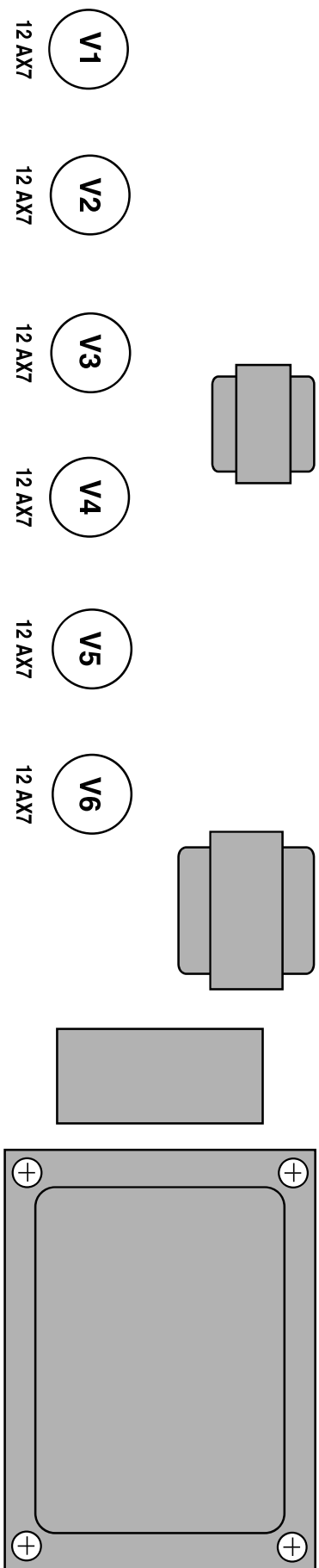
接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

13



14





V1A	-ゲイン第1段	V4A	-リバーブ・リターン
V1B	-ゲイン第2段	V4B	-リバーブドライバ
V2A	-CH1/CH2ゲイン第3段	V5A	-エフェクト・セントロ
V2B	-CH3/CH4ゲイン第3段	V5B	-エフェクト・リターン
V3A	-CH3/CH4ゲイン第4段	V6A&B	-ドライバ、
V3A	-CH3/CH4トーンスタックドライバ		フェーズインバータ

The Spirit of Art in Technology



(707) 778-6565 FAX NO. (707) 765-1503
1317 Ross Street Petaluma, CA 94954
USA



株式会社 キョーリツコーポレーション
www.kcmusic.jp / www.mesaboogie.jp

□本社・名古屋営業所 〒468-0002 名古屋市天白区焼山1-813
TEL 052-847-5300(代) FAX 052-847-5310
□東京営業所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-5-11 堀留Dビル4F
TEL 03-5614-2081 FAX 03-5614-2166
□大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町11番34号 第10マイダビル301号
TEL 06-6310-7833 FAX 06-6310-7858

□福岡営業所 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町2-4 KSコンドビル201号
TEL 092-271-1125 FAX 092-271-1203
□仙台営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目16-23 SLSビル3F
TEL 022-212-9311 FAX 022-212-9322
□札幌営業所 〒060-0061 札幌市中央区南一条西六丁目15-1 札幌あおぼ生命ビル9F
TEL 011-242-3323 FAX 011-242-3325